

# 第 15 回 日本聴覚障害学生 高等教育支援 シンポジウム

「声」に寄り添う・「参加」を支える

2019 年 11 月 24 日 日

会場 大阪大学 吹田キャンパス

- 主催 国立大学法人 筑波技術大学  
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)
- 共催 大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター
- 協力 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム  
関西大学 学生相談・支援センター  
関西学院大学 学生活動支援機構総合支援センター  
京都大学 学生総合支援センター障害学生支援ルーム  
京都産業大学 障害学生教育支援センター  
同志社大学 学生支援センター障がい学生支援室  
立命館大学 障害学生支援室  
特定非営利活動法人ゆに
- 後援 文部科学省  
独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)  
一般財団法人 全日本ろうあ連盟  
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合  
特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪  
特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム  
公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
東京大学 障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業 (PHED)  
京都大学 高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)





# もくじ

代表挨拶	2
実行委員長挨拶	3
開催要項	4
プログラム	6
情報保障について等	9
会場案内	10

## 全体会Ⅰ・セッション

全体会Ⅰ	14
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2019	15
教職員による聴覚障害学生支援実践発表 2019	16
関連団体、筑波技術大学、実行委員校・機関、正会員大学・機関活動紹介	17
セミナー1	
基礎講座「学ぼう！知ろう！支援の仕方・使い方」	19
セミナー2	
手話通訳ニーズに応えるためのコーディネート体制のあり方	23
聴覚障害学生支援に関する個別相談	28

## 全体会Ⅱ

全体会企画「聴覚障害学生の『参加』を支える支援—話し合い場面から考える—」	29
---------------------------------------	----

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 紹介	33
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 正会員大学・機関 紹介	43
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2019 発表内容紹介	53
教職員による聴覚障害学生支援実践発表 2019 発表内容紹介	71
【参考】前日特別企画	81

実行委員一覧	84
--------	----





## 第 15 回シンポジウム 開催にあたって

国立大学法人 筑波技術大学長

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク代表

石原 保志

この度、第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを、大阪大学にて開催する運びとなりました。全国よりご参加いただきました皆様を心より歓迎いたします。また、共催校である大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター、及び、協力校・協力機関である関西地区の大学・機関の皆様に、心より御礼申し上げます。

筑波技術大学が代表幹事大学を務める、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)は、2004 年に活動を開始し、聴覚障害学生支援について積極的な取り組みを行う全国の大学・機関の協力のもと、ノウハウを積み重ね、先駆的な取り組みを行って参りました。聴覚障害学生への日々の支援に関する各種事業、そして東日本大震災や熊本地震での大学間ネットワークを活かした情報保障支援などを経験しながら、常に我が国の障害学生支援の未来を描き、リードしてきたと自負しております。2018 年度には会員制度をスタートし、そのネットワークは、全国 32 の正会員大学・機関、53 の準会員大学・機関、241 名の個人会員に広がっております(2019 年 8 月現在)。

一方筑波技術大学は、聴覚、視覚障害者のための我が国で唯一の高等教育機関として、職業分野で活躍する人材を育成するとともに、障害者の教育、支援に関する実践的研究を推進してきました。今後、2014 年度に設置された大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻、2020 年度入試より産業技術学部の新領域として創設される「支援技術学」「情報デザイン学」を通して、ますます障害者支援、情報保障の中核的な役割を担う人材育成に尽力してまいります。

さて、本シンポジウムは、「『声』に寄り添う・『参加』を支える」を全体テーマに据え、プログラムを構成しております。障害者差別解消法の施行によって支援が広がりを見せる今こそ、メニュー的な支援の提供に終始せず、真に聴覚障害学生個人の声に寄り添い、参加を実現しているか、という視点に立ち返るべきではないでしょうか。どの企画も、参加者同士の意見交換が活発に行われるよう工夫を凝らししており、参加された皆様にとって有意義な一日となることを願っています。

最後に、本シンポジウム開催にあたり、ご後援いただきました文部科学省をはじめとする各機関、そして実行委員、関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。





## 第 15 回シンポジウムの開催にあたって

第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

実行委員長

国立大学法人 大阪大学

キャンパスライフ健康支援センター長

守山 敏樹

第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが、筑波技術大学との共催により、大阪大学において開催されますことを大変うれしく思います。全国からお集まりいただいた皆様を心から歓迎いたします。

本学における障害学生支援を振り返りますと、1992 年に発足した身体障害学生修学援助委員会が、組織としての支援の始まりです。その後 2002 年には障害学生支援室が設立され、2010 年には学生支援ステーション、2013 年キャンパスライフ支援センターを経て、2017 年度からキャンパスライフ健康支援センターとなり現在に至ります。

当センターの相談支援部門内に設置されているアクセシビリティ支援室では、身体障害と発達・精神障害、それぞれを専門とするコーディネーターを配置し、専任教員によるアセスメント体制を設けて、障害学生が所属する教育組織を主体とした障害学生支援をサポートしています。また、センター内の各部門・部署のみならず、国際教育交流センター、キャリアセンター、ハラスメント相談室、男女協働推進センター等との連携に注力し、幅広い支援を提供しております。

今回のシンポジウムでは、－「声」に寄り添う・「参加」を支える－というテーマのもと、聴覚障害学生個々人に寄り添った多様な参加を支えるための幅広く充実した内容の企画が準備されています。参加者の皆様による活発な議論・交流と情報共有を通じて、今後の障害学生支援のために多くの成果を持ち帰っていただけることと確信しております。

本シンポジウムの開催準備にあたり、実行委員として多大なご尽力をいただいた筑波技術大学関係者の皆様と関西圏各大学の教職員の皆様に深く御礼申し上げますとともに、高等教育における今後の障害学生支援が一層充実したものとなりますことを祈念して、ご挨拶いたします。





## 開催要項



- 名 称 : 第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- 目 的 : 筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、特に聴覚障害学生への支援体制が充実し、積極的な取り組みを行ってきている大学・機関と共同で、聴覚障害学生支援に関するノウハウを積み重ね、先駆的な事例の開拓を行ってきた。そして障害者差別解消法の施行をはじめとする昨今の情勢の変化を受け、本ネットワークは 2018 年度から新体制をスタートさせ、より広く強固なネットワークの構築を目指している。
- 本シンポジウムでは、全国の大学における聴覚障害学生への支援実践に関する情報を交換するとともに、本ネットワークの活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の高等教育機関における聴覚障害学生支援体制発展に寄与することを目的とする。
- 日 時 : 2019 年 11 月 24 日（日）10 時～15 時 30 分  
※11 月 23 日（土）13 時～16 時には「前日特別企画」を実施
- 会 場 : 大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター 他  
（大阪府吹田市山田丘 1-1）
- 対 象 : 全国の大学等で障害学生支援を担当する教職員、及び聴覚障害学生、支援者  
その他高等教育機関における障害学生支援に関心のある方々
- 主 催 : 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）  
国立大学法人 筑波技術大学
- 共 催 : 大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター
- 協 力 : 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム  
関西大学 学生相談・支援センター  
関西学院大学 学生生活動支援機構 総合支援センター  
京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム  
京都産業大学 障害学生教育支援センター  
同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室





立命館大学 障害学生支援室  
特定非営利活動法人 ゆに

後 援 : 文部科学省  
独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)  
一般財団法人 全日本ろうあ連盟  
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合  
特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪  
特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム  
公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
東京大学 障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業 (PHED)  
京都大学 高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)

参 加 費 : 無料





## プログラム



11月24日（日）受付 9時30分～

午前 全体会Ⅰ／セッション企画

	聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 【体育館】	教職員による聴覚障害 学生支援実践発表 【体育館】	関連団体活動紹介 【1階ホワイエ/体育館】
10:45			
11:15	<p>10:45～12:30</p> <p>■前半発表 (10:45～11:35)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京学芸大学</li> <li>・千葉大学</li> <li>・九州ルーテル学院大学</li> <li>・松山大学</li> <li>・愛媛大学</li> <li>・東北福祉大学</li> <li>・札幌学院大学</li> <li>・関西大学</li> </ul> <p>■後半発表 (11:40～12:30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都大学東京</li> <li>・九州大学</li> <li>・北星学園大学</li> <li>・日本福祉大学</li> <li>・宮城教育大学</li> <li>・東北大学</li> <li>・愛知教育大学</li> <li>・大阪教育大学</li> </ul>	<p>10:45～12:30 <u>《教職員の方のみ閲覧可》</u></p> <p>※発表者在席時間は 11:15～12:05</p> <p>※その他の時間帯は ポスター掲示のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城教育大学</li> <li>・群馬大学</li> <li>・群馬医療福祉大学</li> <li>・東京女子体育大学</li> <li>・東京農業大学</li> <li>・目白大学・目白大学短期 大学部</li> <li>・小田原短期大学</li> <li>・大阪府立大学</li> <li>・九州ルーテル学院大学</li> </ul>	<p>10:45～12:30 【1階ホワイエ】</p> <p>■正会員大学・機関紹介 パネル展示</p> <p>■実行委員校・機関紹介 パネル展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪大学</li> <li>・大阪教育大学</li> <li>・関西大学</li> <li>・関西学院大学</li> <li>・京都大学</li> <li>・京都産業大学</li> <li>・同志社大学</li> <li>・特定非営利活動法人ゆに</li> </ul> <p>【体育館】</p> <p>■関連団体紹介展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学 障害と高等教育に 関するプラットフォーム形 成事業（PHED）</li> <li>・京都大学高等教育アクセシ ビリティプラットフォーム （HEAP）</li> <li>・大阪聴力障害者協会</li> <li>・ソノヴァ・ジャパン株式会社</li> <li>・全日本ろう学生懇談会</li> <li>・筑波技術大学 他</li> </ul>
12:30	12:30～13:15 ポスターのみ閲覧可能	12:30～13:15 ポスター掲示のみ ※この時間帯は <u>教職員以外の方も、 全ての参加者が</u> 閲覧可能です	
13:30			





【 】内は会場

	全体会Ⅰ／セミナー１ 【３階 MOホール】	セミナー２ 【２階 会議室２】	個別相談 【２階 会議室３】
10:00	10:00～10:30 全体会Ⅰ ・コンテスト参加団体 30秒アピール		
10:30	移動・休憩		
10:45	10:45～12:00  セミナー１ 基礎講座 「学ぼう！知ろう！支援の 仕方・使い方」  司会： 辻井美帆（京都大学） 講師： 土橋恵美子（同志社大学） 藪田みゆき （同志社大学 障がい学生 支援制度利用学生 OG）	10:45～12:00  セミナー２ 「手話通訳ニーズに応える ためのコーディネート体 制のあり方」  司会： 白澤麻弓（筑波技術大学） 講師： 松崎 文（宮城教育大学）	
12:00			12:00～12:30 個別相談（１枠目）
12:30			
13:05			12:35～13:05 個別相談（２枠目）



## 午後 全体会Ⅱ

【 】内は会場

	全体会Ⅱ 【3階 MOホール】
13:30	・ 開会行事
13:45	<p>・ 全体会企画 パネルディスカッション 「聴覚障害学生の『参加』を支える支援 —話し合い場面から考える—」</p> <p>司会：村田 淳（京都大学） 講師：中野聡子（大阪大学） 有海順子（山形大学） 小佐野貴恵（山梨県立ろう学校）</p>
15:00	・ 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2019 表彰式
15:20	・ 閉会挨拶
15:30	終了







## 情報保障について



基本的にすべてのプログラムに手話通訳ならびにパソコンによる文字通訳がついていますが、「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2019」を含む参加者同士のコミュニケーションにつきましては各自ご配慮ください。

また、事前に利用希望のお申し出のあった企画については、デジタルワイヤレスの補聴援助システムをご用意しております。専用マイクを通して、音声は直接補聴器に届くシステムです。ご不明な点がありましたら、スタッフまでお声がけください。



## 急病・ケガ・体調不良など



会場内に簡易な救護室を設けることができますので、休憩が必要な際にはスタッフにお声かけください。体調が優れず救護室の利用が必要な場合にも、お近くのスタッフにお声かけください。なお、急病の場合は病院へのご案内となります。



## 災害時の対応について



火事や地震など災害発生時には、落ち着いて身の安全を確保したあとスタッフの指示に従って避難してください。



## 写真及びビデオ撮影について

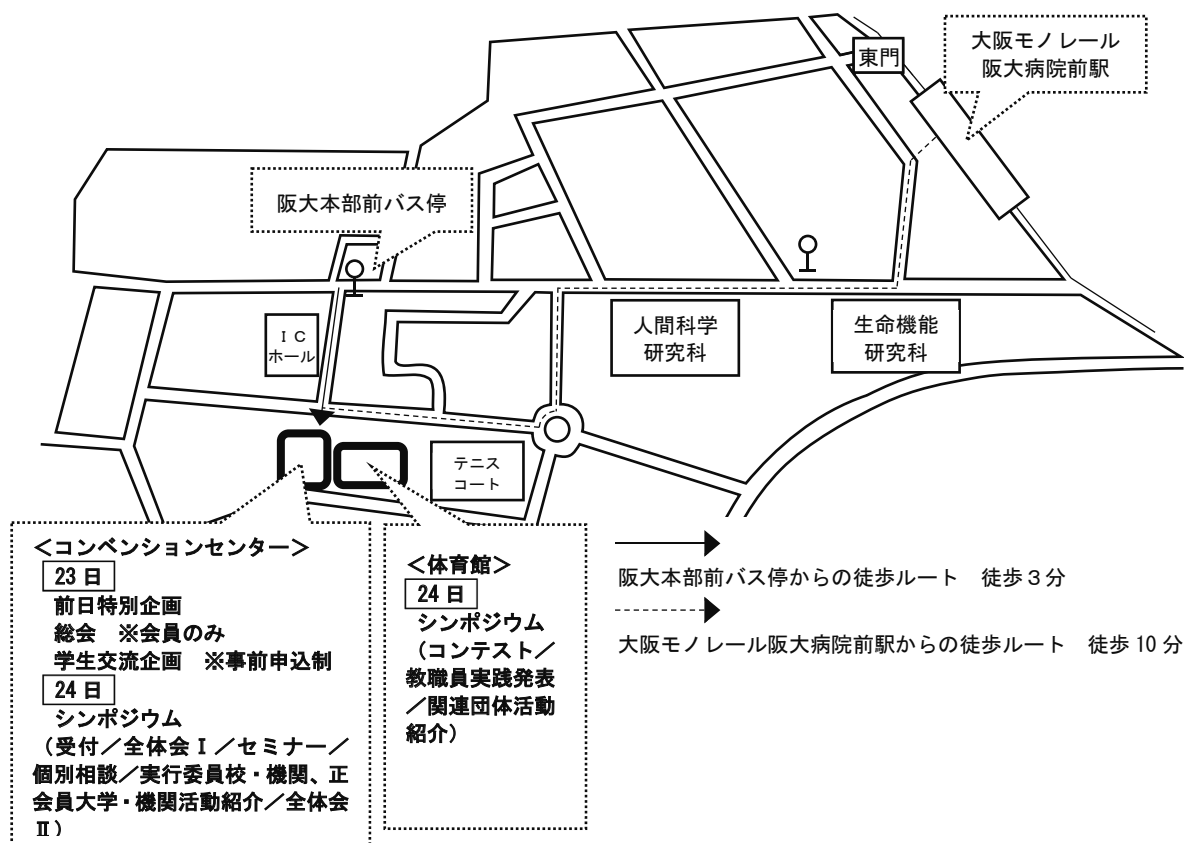


会場内での写真及びビデオの撮影はご遠慮ください。報告のために写真が必要な場合は、事務局より提供いたしますので、ご連絡ください。

ただし「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」「教職員による聴覚障害学生支援実践発表」「関連団体活動紹介」の発表者が、所属先への報告等のために、自らのブース及び全体会Ⅰ参加団体 30 秒アピール、全体会Ⅱ表彰式を撮影することは可能です。その場合も、他の参加者の顔が写らないよう、ご配慮をお願いいたします。



## 大阪大学構内マップ

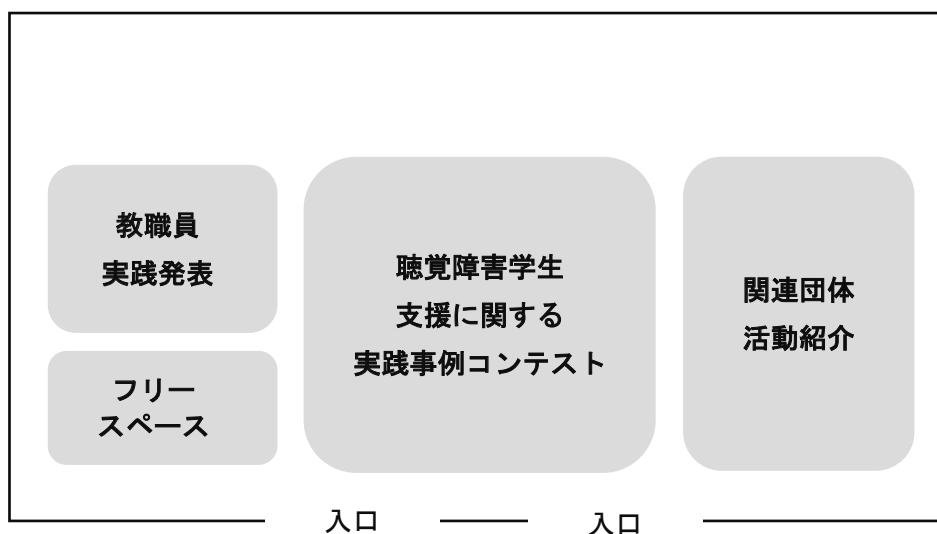


## 体育館

※飲食禁止

※配置が変更になる可能性があります。

詳細は当日会場内の掲示にてご確認ください。



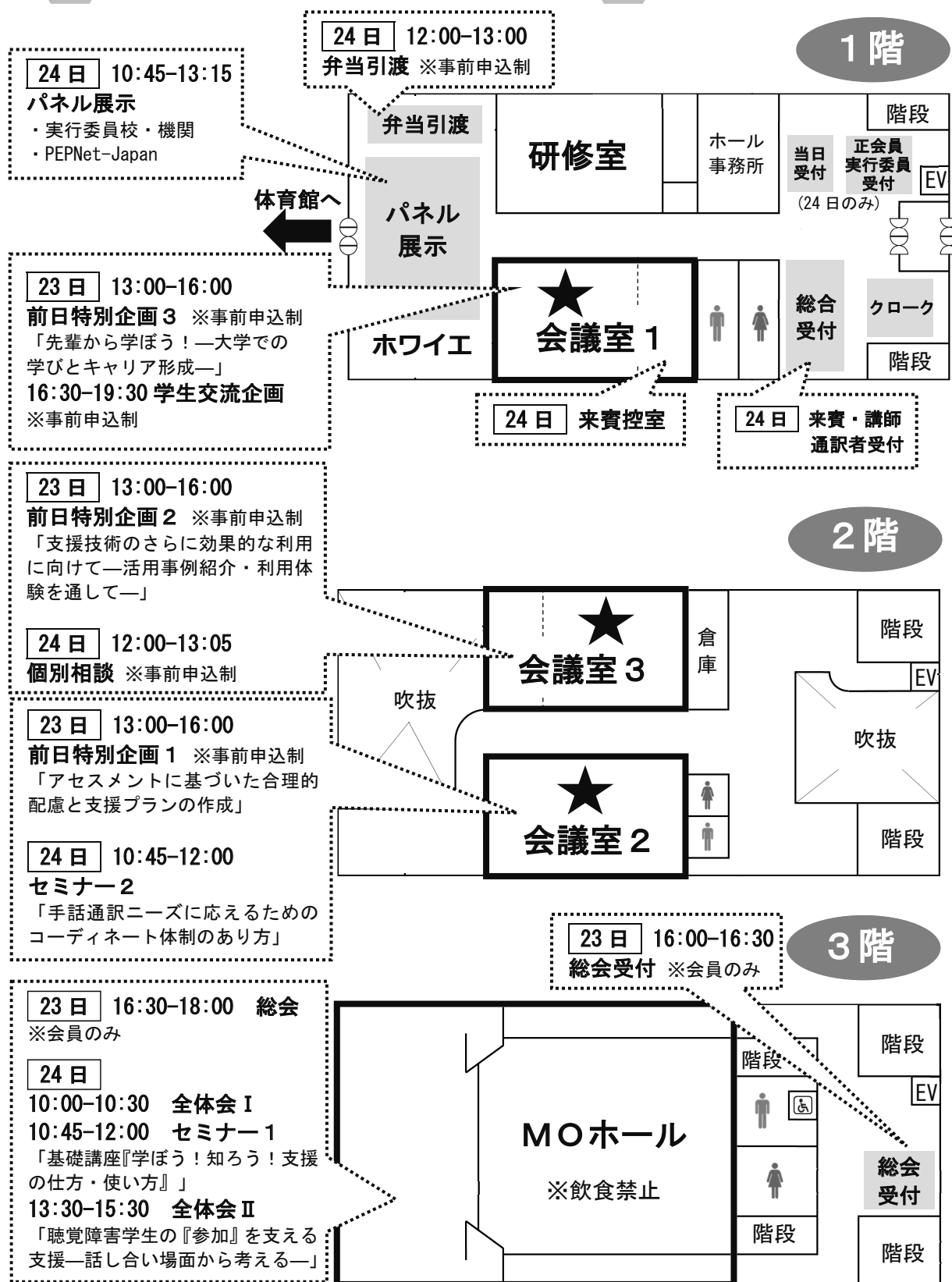




# コンベンションセンター



## ★昼食会場



※体調不良の方はスタッフにお声かけください。休憩室にご案内します。





 **MEMO** 

[illegible]



- ・ 全体会 I
- ・ セッション



.....  
SYMPOSIUM 2019







時間:10:00～10:30 会場:3階 MO ホール

## 次 第

1. 学ぼう！楽しもう！シンポジウム（プログラムのご説明）
2. 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2019 参加団体 30 秒アピール

## コンテスト参加団体一覧

### 【前半】

東京学芸大学 障がい学生支援室  
千葉大学 ノートテイク会  
九州ルーテル学院大学 障がい学生サポートルーム  
松山大学 学生支援室 障害学生支援団体 P O P  
愛媛大学 障がい学生支援ボランティア  
東北福祉大学 障がい学生サポートチーム  
札幌学院大学 アクセシビリティ推進委員会  
関西大学 学生相談・支援センター

### 【後半】

首都大学東京 ダイバーシティ推進室  
九州大学 障害者支援ピア・サポーター  
北星学園大学 アクセシビリティ支援室 Note Takers  
日本福祉大学 学生支援センター 学生スタッフ  
宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会  
東北大学 特別支援室 利用学生・学生サポーター  
愛知教育大学 情報保障支援学生団体てくてく  
大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム





【前半】 10:45～11:35 【後半】 11:40～12:30  
会場：大阪大学 吹田キャンパス 体育館

本シンポジウムでは、全国の大学・団体が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けております。会場には、教職員・学生など16団体の応募者が力を入れて作成したポスターが並んでいます。

内容をご覧ください、「この取り組みは参考になる！」と思った発表に投票してください。

また、投票用紙の裏面にコメント欄を用意しています。投票される団体への応援コメントをご記入の上、投票していただきますよう、お願いいたします。

## 投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙（2枚）が入っています。

会場でポスターや発表をご覧ください、これは良い！と思った発表に投票してください。投票箱は会場内の2箇所に設置しています。

★本コンテストでは、次のような観点から投票をお願いします。

- ・こんな取り組みを自分の大学でも実現したい！
- ・ぜひ真似したいアイデアだ！
- ・今後の発展が楽しみな内容だ！
- ・日頃の努力が伝わってくる！

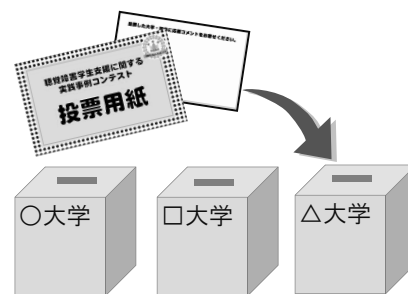
★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

- ・PEPNet-Japan 賞
- ・準 PEPNet-Japan 賞
- ・グッドプラクティス賞
- ・プレゼンテーション賞

（障害の有無に関わらず、すべての参加者に伝わる発表になるよう工夫していた1団体）

- ・新人賞（コンテストへの参加回数が2回以下である団体のうち、今後の活動の展開に期待が寄せられ、最も得票数が多かった1団体）
- ・奨励賞

裏面に応援コメントを書いて、参考になる取り組みに投票



参加者の皆様同士による積極的なコミュニケーションをお願いいたします。



## 参加団体

【前半】

東京学芸大学 障がい学生支援室／千葉大学 ノートテイク会／九州ルーテル学院大学 障がい学生サポートルーム／松山大学 学生支援室 障害学生支援団体POP／愛媛大学 障がい学生支援ボランティア／東北福祉大学 障がい学生サポートチーム／札幌学院大学 アクセシビリティ推進委員会／関西大学 学生相談・支援センター

【後半】

首都大学東京 ダイバーシティ推進室／九州大学 障害者支援ピア・サポーター／北星学園大学 アクセシビリティ支援室 Note Takers／日本福祉大学 学生支援センター 学生スタッフ／宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会／東北大学 特別支援室 利用学生・学生サポーター／愛知教育大学 情報保障支援学生団体てくてく／大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム

→各団体の発表内容紹介は53ページ以降に掲載しています。





## 教職員による聴覚障害学生支援実践発表 2019



時間：10:45～12:30 教職員のみ閲覧可能

※ 11:15～12:05 発表者在席

12:30～13:15 教職員以外も閲覧可能

会場：体育館

聴覚障害学生支援に関わる教職員を対象に、参加者みずからが日々の実践を発表し、新たな支援実践につなげることを目指して本企画を実施します。成功事例に限らず実践上の課題や計画中の企画等も含めて発表を行い、情報交換と交流の場となることを期待します。

発表を閲覧できるのは、高等教育機関で聴覚障害学生支援に取り組んでいる教職員です。（ただし、12 時 30 分～13 時 15 分は、どなたでも自由にポスターの閲覧が可能です。）

### 発表内容及び発表者一覧

タイトル	機関名及び発表者
体験を通して考える授業者としてできること ～FD 研修会での取り組み～	宮城教育大学 しょうがい学生支援室 前原明日香 及川麻衣子 佐藤晴菜
授業における手話通訳者養成の実践報告 手話通訳者養成講座実践レベル準拠「日本手話と 日本語の違いを学ぶⅢ」について	群馬大学 教育学部 能美由希子 金澤貴之 学生支援センター・手話サポーター養成 プロジェクト室 下島恭子 川端伸哉
ろう・難聴者の就労上感じる具体的困難と 就労移行支援プログラムの検討	群馬医療福祉大学 社会福祉学部 益子徹
体育大学の実技科目における音声文字化 アプリ・iPad の活用方法の検討 ～聴覚障害学生を対象として～	東京女子体育大学 体育学部 体育学科 池和田克彦(教務部教務課) 小野田桂子(体操 研究室) 小林福太郎(教務部長・道徳研究室)
大学の英語科目における聴覚障害学生 支援の実践報告	東京農業大学 応用生物科学部 谷本佳子
目白大学におけるビデオ教材字幕付支援に 関する実践報告	目白大学・目白大学短期大学部 学生課 障がい等学生支援室 荒木朋依
聴覚障害学生支援におけるキャリア発達支援 教職員のキャリア発達支援を含めて	小田原短期大学 杉中拓央
中国語の授業における人工内耳使用学生に 対する情報保障について	大阪府立大学 高等教育推進機構 清原文代
障がい学生支援に関する地域開放型講演会 開催の意義 —九州ルーテル学院大学の7年間の取り組み—	九州ルーテル学院大学 障がい学生サポート委員会 佐々木順二

各発表の内容は、71 ページ以降に掲載しています。







## 関連団体活動紹介



時間：10:45～12:30 会場：体育館

大学間・関連機関間のネットワークの形成・活性化に寄与することを目的に、セッションの一企画として、活動紹介（展示）を行います。大学と聴覚障害者支援・情報保障支援に関わる地域の各種団体が、相互に活動の様子を知り交流を図る場となることを期待しています。

### 出展機関一覧

- 東京大学 障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業（PHED）
  - 京都大学 高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）
  - 全日本ろう学生懇談会
  - ソノヴァ・ジャパン株式会社
  - 公益社団法人大阪聴力障害者協会
- 他



## 筑波技術大学活動紹介



時間：10:45～12:30 会場：体育館

主催校である筑波技術大学では、情報保障・手話・コミュニケーションなどをキーワードに、様々な最先端の研究を行っています。また、聴覚障害学生支援の発展に向けた事業にも取り組んでいます。こうした筑波技術大学の取り組みについてご紹介しています。

### 展示内容一覧

- 筑波技術大学産業技術学部紹介
- 筑波技術大学教育関係共同利用拠点事業紹介
- 筑波技術大学高大連携プロジェクト紹介
- 筑波技術大学「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」事業紹介 ※日本財団助成事業



- 筑波技術大学 遠隔情報保障システム「T-TAG Caption」  
専用ウェブサイトとタブレット端末用アプリを利用したシステムです。
- 筑波技術大学「ISee TimeLine によるリアルスポーツイベントの次世代の情報保障」(<https://isee.info>)  
障害のあるなしに関係なくタイムライン形式で互いに情報を投稿、返信、閲覧しあうことで、誰でもリアルスポーツ観戦を楽しみ、感動を共有できる情報保障 2.0 を実現します。
- 筑波技術大学「誰もが学び・楽しめる博物館を！手話ガイド育成支援 プロジェクト」(<https://readyfor.jp/projects/museum-project>)  
だれもがより楽しみ、より学べる科学系博物館の実現を目指して、当事者（聴覚障がい者）手話ガイドの育成をお手伝いするプロジェクトです。
- 筑波技術大学産業技術学部「ウェブベース遠隔 PC 文字通訳システム captiOnline」(<https://capti.info.a.tsukuba-tech.ac.jp>)  
遠隔で PC 文字通訳（要約筆記）をウェブブラウザのみで実現しました。音声認識やスマートフォンの活用も視野にいた次世代の遠隔情報保障システムです。
- 筑波技術大学大学院技術科学研究科「クラウドソーシングによる手話文字通訳」  
クラウドソーシングを活用して講演などの手話を映像としてリアルタイムで配信し、手話を文字通訳してもらい、ダイレクトな手話文字通訳の実現を目指した研究です。



### 実行委員校・機関活動紹介



時間：10:45～12:30 会場：1 階ホワイエ

- 大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター
- 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム
- 関西大学 学生相談・支援センター
- 関西学院大学 学生活動支援機構 総合支援センター
- 京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム
- 京都産業大学 障害学生教育支援センター
- 同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室
- 特定非営利活動法人 ゆに




### 正会員大学・機関活動紹介




時間：10:45～12:30 会場：1 階ホワイエ





# セミナー1



時間:10:45~12:00 会場:3階 MO ホール

## 基礎講座「学ぼう！知ろう！支援の仕方・使い方」

企画コーディネーター：土橋恵美子(同志社大学)

司 会：辻井美帆(京都大学)

講 師：土橋恵美子(同志社大学)

藪田みゆき(同志社大学障がい学生支援制度 利用学生 OG)

- 討論の柱 ①大学での支援の実際を把握し、支援を活用する際のポイントを知る  
(聴覚障害学生・高校生)
- ②支援提供の流れとそのポイントを把握する(教職員)

### 企画趣旨

大学での障害学生支援は、学生本人が支援利用の申し出を行うことから始まる。高校までの学び方とは大きく異なり、学生自身がニーズを示し、自分にとって必要な支援を求めていくことが求められるが、初めての経験でどのように進めれば良いのか分からない、との戸惑いの声が多く聞かれる。

また、初めて聴覚障害学生を受け入れた大学の担当者からも、どのように支援体制を構築すれば良いのか、また学生のニーズを引き出せば良いのか分からないという相談を受けることも多い。そうした大学に向けたノウハウや活用可能な資料がどこにまとめられていて、どのように活用できるのかについても、共有される機会はあまり多くない。

そこで、本企画では支援利用を希望する学生と、初めて支援を提供する教職員に、支援利用の流れと、必要となるポイントについてそれぞれの立場で共有する機会としたい。そして、参加者それぞれが各大学に戻った後に、実際にアクションを起こせる後押しとしたい。

### スケジュール

- 10:45~10:55 企画主旨説明・講師紹介(辻井)
- 10:55~11:30 話題提供(土橋・藪田)
- 11:30~11:55 資料のダウンロード/活用方法の紹介
- 11:55~12:00 質疑応答



### 参考資料

- ・ 大学コンソーシアム京都「障がい学生支援に関する各種フォーマットについて」  
<http://www.consortium.or.jp/project/dss/dssformat>
- ・ 日本学生支援機構「教職員のための障害学生修学支援ガイド」  
[https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu\\_shien/guide\\_kyouzai/guide/index.html](https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/guide_kyouzai/guide/index.html)
- ・ 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）ホームページ  
<http://www.pepnet-j.org/>







DOSHISHA UNIVERSITY

第15回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

**基礎講座**

**「学ぼう!知ろう!支援の仕方・使い方」**

同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室  
チーフコーディネーター 土橋恵美子  
同志社大学障がい学生支援制度  
利用学生OG 藪田みゆき

1

DOSHISHA UNIVERSITY

**今日のお話**

1. 高校までと大学の違い
2. 障害学生支援の利用
3. 必要な支援を求めるために
4. 必要な支援を提供するために
5. 支援を受けた経験から
6. 資料のダウンロード
7. 資料の活用方法

2

DOSHISHA UNIVERSITY

**1. 高校までと大学の違い**

- ・ 担任の先生はいないの？
- ・ キャンパスや校舎が複数あるの？
- ・ 時間割を自分で組むの？
- ・ 授業によってクラスが変わるの？
- ・ クラスメイトはいないの？
- ・ きこえないことを自分で説明するの？
- ・ 他にきこえない人はどこにいるの？
- ・ 支援を受けるときはどうすればいいの？
- ・ 実験/実習やフィールドワーク系の授業もあるの？

↓

**2. 障がい学生支援の利用**

3

DOSHISHA UNIVERSITY

**2. 障がい学生支援の利用**

- ・ 窓口はどこ？
- ・ どのような支援を受けられるの？
- ・ いつ行けばいいの？
- ・ 何を伝えればいいの？
- ・ 何を準備すればいいの？

↓

**3. 必要な支援を求めるために**

4

DOSHISHA UNIVERSITY

**障害者差別解消法 2016年4月施行**

**学生**



**大学**



大学に対して「合理的配慮」としての  
支援を求める権利

学生の申出に対して、「合理的配慮」  
としての支援を組織(大学)として  
提供する義務

5

DOSHISHA UNIVERSITY

**3. 必要な支援を求めるために**

【聴覚障害学生・高校生】

- ・ 普段のコミュニケーション方法は？
- ・ 今までどのような支援を受けてきた？  
(ろう学校出身か普通校出身か)
- ・ 障害者手帳はある？
- ・ 聴覚障害について説明できる？
- ・ 自分の障害について説明できる？
- ・ 授業について担当教員から情報を得たり相談できる？
- ・ どのような支援があれば情報をキャッチできる？

↓

**4. 支援を受けた経験から**

6





DOSHISHA UNIVERSITY

## 4. 支援を受けた経験から

### 【聴覚障害学生・高校生へ】

- ・高校生の時からオープンキャンパス、合同説明会などで相談する
- ・入学試験を受ける際の支援について確認する
- ・合格後～入学前～入学後も継続して相談する
- ・入学してからわかることや支援を受ける中で変わるニーズもある
- ・周囲の学生や先生にも協力してもらう
- ・支援してくれるスタッフとの距離や関係を確認しあう
- ・支援は年度の途中からでも利用できる!

↓

5. 必要な支援を提供するために

7



DOSHISHA UNIVERSITY

## 5. 必要な支援を提供するために

### 【教職員】

- ・コミュニケーションをとるために事前にできることを準備しておく
- ・どのような支援ができるか(できないか)説明できるようにしておく
- ・支援を提供するために必要な書類を準備しておく
- ・一般的な聴覚障害について知識をつけておく
- ・聴覚障害に個人差があることを知っておく
- ・大学で情報発信される場面を想定しておく

↓

6. 資料のダウンロード 7. 資料の活用方法

8



DOSHISHA UNIVERSITY

## 6. 資料のダウンロード

### ① PEPNet-Japan

<http://www.pepnet-j.org/>

### ② 大学コンソーシアム京都

「障がい学生支援に関する各種フォーマットについて」

<http://www.consortium.or.jp/project/dss/dssformat>

### ③ 日本学生支援機構

「教職員のための障害学生修学支援ガイド」

[https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu\\_shien/guide\\_kyouzai/guide/index.html](https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/guide_kyouzai/guide/index.html)

9



DOSHISHA UNIVERSITY

## 7. 資料の活用方法

### ① PEPNet-Japan

[参考: TipSheet 内容抜粋]

- ・高等教育における聴覚障害学生支援
- ・聴覚障害
- ・聴覚障害学生のコミュニケーション方法
- ・聴覚障害学生の意思表明とその支援
- ・情報保障の手段
- ・入学当初のサポート
- ・学期初めのコーディネート業務



10



DOSHISHA UNIVERSITY

## 7. 資料の活用方法

### ② 大学コンソーシアム京都

「障がい学生支援に関する各種フォーマットについて」

#### [参考]

- ・配慮申請書 エクセル  
〈支援を必要としている学生が書くもの〉

↓

- ・サポート学生募集 パワーポイント  
〈必要な支援に応じて教職員が学生を募集〉

↓

- ・サポート学生登録書 エクセル  
〈サポートをしてくれる学生が書くもの〉

11



DOSHISHA UNIVERSITY

## 7. 資料の活用方法

### ③ 日本学生支援機構

「教職員のための障害学生修学支援ガイド」

#### [参考]

- ・場面一覧
- ・インタークシートの例

12





## セミナー 2



時間：10:45～12:00 会場：2階 会議室2

### 手話通訳ニーズに応えるための コーディネート体制のあり方

司 会：白澤麻弓（筑波技術大学）

講 師：松崎 丈（宮城教育大学）

- 討論の柱
- ①大学における手話通訳ニーズとはどのようなものか、現状と課題を知る
  - ②手話通訳支援の先端事例から大学におけるコーディネート体制のあり方を考える
  - ③大学が主体となっていかに地域の機関・人材との関係を構築するかを事例を通して学ぶ

#### 企画趣旨

大学等の高等教育機関（以下、大学）における聴覚障害学生への情報保障支援は、ノートテイクをはじめとする文字通訳を中心に多くの大学で提供されているが、一方で手話通訳については学内で人材確保することが難しい状況にある。そのため、聴覚障害学生の手話通訳ニーズに対応するためには、地域の機関・人材との連携が欠かせない。しかし実際には、地域の派遣センター等においても人材不足等の事情があり、大学の授業では派遣を受けることが叶わず、“連携”以前の段階で止まってしまうケースも少なくない。

こうした現状を打開し、大学で手話通訳ができる体制を整えるためには、以下のような視点が重要であると考えられる。

- ①地域との連携には、時間をかけて関係を構築するプロセスが不可欠である。
- ②地域の機関・人材（通訳者）から信頼を得られるようなコーディネート体制を大学が主体的に構築し、より良い支援の提供に向けて共に取り組む姿勢が求められる。

本企画では、この 2 つの視点に立って、大学における手話通訳ニーズの現状を知るとともに、地域と大学とが協働して手話通訳支援の提供に取り組んだ事例をもとに、なぜ手話通訳が必要なのか、またそれに応えるために各大学ではどのような取り組みができるのかを学ぶ。

#### 内容

- 1. 手話通訳ニーズと大学におけるコーディネート体制  
（2018 年度厚生労働省受託事業報告）：白澤
- 2. 話題提供：地域の人材と協働で築く手話通訳支援の事例：松崎
- 3. まとめ



1

2019年11月24日  
第15回聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム  
セミナー2  
**手話通訳ニーズに応えるための  
コーディネート体制のありかた**

宮城教育大学  
特別支援教育講座  
松崎 丈

2

## 本日の内容

派遣団体（人材）と  
の関係づくり  
(大学院博士課程時代)

①派遣団体との関係づくり  
②通訳者との関係づくり  
③質担保のための取り組み  
(大学教員として採用されてから)

通訳派遣の実現

3

### 派遣団体（人材）との関係づくり 手話通訳コーディネートを学んだ大学院博士課程時代

- 入学した時は支援体制は皆無。当時の指導教員が学部長や副学長をされていたため情報保障にかかる予算は確保。
- 大学への公的派遣が認められなかったため、博士1年次の時に「宮城県・仙台市聴覚障害者学生情報保障支援センター」を設立。継続的に通訳者を大学院に派遣できる仕組みを作る。
- 博士論文審査のように重要な場面では、企業等を対象にした「みやぎ手話通訳派遣センター」に依頼し、大学・大学院経験のある手話通訳者を派遣してもらう。
- 上記2センターと大学院のコーディネート業務（派遣依頼・資料の事前送付・関係者への周知・打ち合わせのセッティング・会場内の情報保障者配置・事後反省会の実施、財務に対する書類作成など）を担当。どうしても自分も通訳者も動きやすいかを考えながらとりくむことができた。
- 日本特殊教育学会大会の情報保障コーディネーターも担当。

4

### ①派遣団体との関係づくり 大学教員として採用されてから

- 高等教育機関に対応できる手話通訳者の中・長期的に育てていくことを見据えたコーディネートの方針を共有。
- 県内の各種法人理事を担当している関係で派遣団体のコーディネーターに会うことが多く、手話通訳者の状況を共有したり苦労話も聞くようにする。
- 必ず指定された日時までに資料を届ける。内容的に8割であっても。派遣団体コーディネーターと通訳者の信頼関係を大切にするために。

5

### ②通訳者との関係づくり 大学教員として採用されてから

- 通訳前
  - ・会議や発表会では司会者が手話通訳の存在と配慮について説明する。
  - ・教職員や学生も通訳者に挨拶する。
  - ・通訳者との打ち合わせのレベルからこちらの話す内容を調整する。
  - ・読み取り通訳で日本語翻訳の基準についてアドバイスする。
  - ・手話通訳を利用する聴覚障害学生のニーズを顕在化する。
- 通訳中
  - ・通訳者の行動を観察しながら、通訳者がどこで躓いているのかを予測して話す速度や間を作るタイミングなどを調整する。
- 通訳後
  - ・通訳者や関係者への抑圧・批判・攻撃など倫理面に関わる問題を生じさせないようにする。
  - ・通訳者に必ずねぎらいとお礼のことばをかける。
  - ・通訳時の問題についてお詫びで終わらせず具体的な事例をほりさげて話し合う。安易に誰かが悪い、責任があると終わらせず、当事者同士の信頼関係に基づいて行う。
  - ・コーディネート体制の現状や課題について意見や要望を聞くことも。

6

## 手話通訳ニーズの顕在化

### 1. 聴覚障害学生にヒアリング

手話通訳養成の現状から学術レベルでの対応に課題があること、そのため我々に手話通訳者を養成する役割があることを伝えた上で、ヒアリング。

### 2. ヒアリングの方法

- ①過去の卒論発表会やゼミを振り返ってニーズを確認。
- ②PEPNet-JapanのDVDを使ってニーズを顕在化。  
PEPNet-Japan発行の「大学での手話通訳ガイドブック」手話通訳A,B,Cの映像を見てもらってニーズを確認。  
例. NM表現や空間配置の活用、日本手話独自の表現の採択など。
- ③ヒアリングの内容を文章にし、派遣団体の伝達内容を確認。







## 大学における手話通訳の条件 ノースイースタン大学の事例から

13

### ＜リテラシー＞

- ・思考・認知と深く結びついた言語技術
- ・手話も日本語も高等教育レベルで言語運用できるか。

### ＜専門知識＞

- ・自分の使っている言語で理解できないものは、通訳もできない。

## 「問う－答える」の言語活動

14

物事に対する批判的検討・問題発見－解決の活動  
日常生活ではあまりそのように語る(問う)ことがない。  
「手話が上達した。ろう者とたくさん話したのがよかった。」  
物事→その結果  
物事→その原因(背景)  
高等教育ではそのように語る(問う)ことを要求する。  
物事→その結果→その意味付け(心的反応)  
⇒その確からしさ(妥当性)の吟味⇒仮説の抽出...  
物事→その原因(背景)⇒その確からしさ(信頼性)  
⇒仮説の抽出⇒仮説に関するデータ収集⇒検証...  
事実と推測、事実とコメントを区別する「ことば」にも敏感。  
(1) 一般的事実か、話者の主張か、他者の意見か  
(2) 事実について意見を述べるとき  
( )...と思われる( )...と言える( )...と示唆される

## 論理的に考えるということ

15

「論理トレーニング101題(野矢茂樹著)」より  
問34

適切な接続表現を用いて、「①、□、②」という文章を作り、その接続関係を接続語で表せ。ただし、内容を変えない程度に文は適当に変更してよい。

- ①今日の巨大なオフィス・ビルの中では、時計を見ない限り、夜なのか昼なのかすら分からないような状況になっている。
- ②電灯は、たんに光ということだけでなく、人工的空間の中であって時間の感覚を組み換えるものとなったとも言える。

## 言語活動とディスコース(談話)構造

16

日常会話・講演講話のディスコース構造は簡潔かつ柔軟。

- ・日常会話での語りの場合  
例: 自分の経験を語る  
テーマ→一連の事柄→結末→心的反応
- ・市民公開講演・講話の場合  
テーマ→事柄→結末・心的反応→意味づけ・主張

大学や学会のディスコース構造は緻密かつ堅実。

- ・大学や学会における講義・論文発表の場合  
テーマ⇒背景⇒仮説の提示⇒  
⇒仮説の検証⇒考察⇒今後の課題

## ディスコース構造の把握と通訳

17

手話通訳の現状

- 学生は...  
講義等で、緻密かつ堅実なディスコース構造を習得することで、議論の展開を予測できるようになる。  
論理一貫性や文内の事象同士の関係にも敏感になる。  
例. 主張を聞いて、その根拠は? その確かさは? と考えるように。
- 手話通訳者の場合...  
ディスコース構造に不慣れなため、その時々以後の展開や事象同士の関係構造を把握しにくくなる。そのため「聞き溜め」が増えたり内容が省略される。
- 通訳利用者にとって...  
ディスコース構造を細かく捉え、学ぶ活動が制約される。  
自身のディスコースの情報が聞き手に伝わりにくくなる。

## 手話通訳者として何をすべきか

18

1. 言語技術を習得する。自ら問い学ぶ活動を実践しよう。  
○論理・仮説的思考の基礎を高める訓練を行う。  
「論理的に考える力を引き出す」 三森ゆりか 一声社 1500円  
「論理トレーニング101題」 野矢茂樹 産業図書 2,100円  
○通訳者同士で論理的・仮説的な言語表現活動を行う。  
例: レポート作成・プレゼンテーション・ディスカッション  
○講義を担当する者の配布資料を積極的に活用する。  
パワーポイントなら、スライド内の構成やスライド同士の組み合わせから論理展開を推測したりスライドの図絵からいかにCLなどで訳出表現できるかを検討できる。
2. その言語技術を運用する手話表現を身につけよう。  
○論理・仮説的思考を示す手話表現技術を身につける。





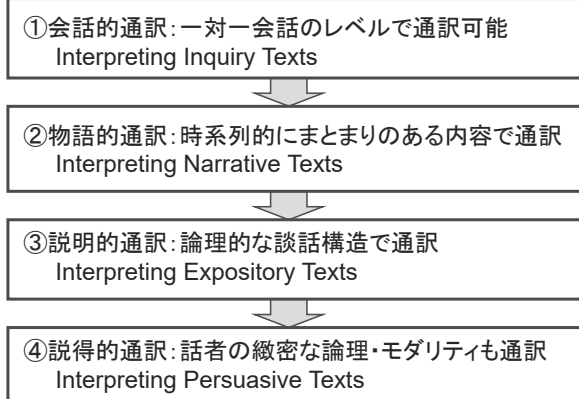
## 手話表現技術①—文法編—

19

内容	手話表現
文の主題を示す。	<input type="checkbox"/> 話題化 <input type="checkbox"/> リファレンシャル・シフト
句・節・文の区切りを示す。	<input type="checkbox"/> うなずき ※うなずきの大きさや回数も談話の流れや山場を捉える重要な情報
句・節同士の論理関係を示す。	<input type="checkbox"/> 接続表現の明示 <input type="checkbox"/> 修辭疑問表現 <input type="checkbox"/> 呼応表現の型の活用
事実と意見の区別を示す。	<input type="checkbox"/> リファレンシャル・シフト
主張や推測の強弱を示す。	<input type="checkbox"/> 表情の強弱 (目の強さ・口の開閉など)
文内の事象同士の関係を示す。	<input type="checkbox"/> 事象の空間的配置 ※配置範囲を広く。横からの配置も有効。 <input type="checkbox"/> 文脈や事象の概念にあった意味類辞

## ノースイースタン大学における 社会言語学の知見を活用した通訳養成段階

20



手話通訳の技術習得だけでなく  
言語技術(リテラシー)の質的な向上  
も考えている!

## 専門分野の知識

21

専門分野の「ことば」には独自の知識体系がある。

### ・語彙の定義と用法

語彙と手話表現との関係では、1対1的対応ではなく、その語彙の定義と用法を踏まえた表現を考えること。

例:「私たちは、障害のあるお子さんの時々刻々と変化する行動の観察から、コミュニケーションの形成につながる糸口を探しだし、お子さんとのコミュニケーションの成立、さらには展開へと進めていくための状況仕事を、仮説と検証を繰り返して実践する必要がある。」

### ・専門分野の知識世界

「背景知識」だけでなく「話者の思想や認識」も大事。

話者の手話や日本語での「語り」の特徴も分析する。

・打ち合わせでは、あらずじ(要約)だけでなく、論理・構造・語彙の定義や用法もできるだけ確認。

## 手話表現技術②—語彙編—

22

内容	手話表現
専門用語を示す。	<input type="checkbox"/> 定義と用法をおさえた語彙の選択 <input type="checkbox"/> 意味類辞の手型や動作パターンを増やす <input type="checkbox"/> 指文字の多用はできるだけ抑える
キーワードであることを示す。	<input type="checkbox"/> 指差しや話題化による強調 <input type="checkbox"/> リファレンシャル・シフト

## 手話表現技術③—音韻・談話編—

23

内容	手話表現
談話のリズムを維持する。	<input type="checkbox"/> 頭や上半身のブレはおさえる(ノイズ) <input type="checkbox"/> 視線方向を的確に配分。 ※ぶれず泳がず(ノイズ) ※リファレンシャル・シフトとしての視線? それとも通訳者自身の迷いの視線? <input type="checkbox"/> 手話本来の拍(モーラ)の維持 <input type="checkbox"/> 語・句の区切りで間を入れない
談話の流れや山場を示す。 ＜説得的通訳＞	<input type="checkbox"/> リファレンシャル・シフト <input type="checkbox"/> うなずき <input type="checkbox"/> 手指動作の運動の大小(法・ムード)
通訳ミスや内容の修正を示す。	<input type="checkbox"/> 打消の非手指動作(簡潔に)





## 聴覚障害学生支援に関する個別相談



時間：12:00～13:05 会場：2階 会議室3

対応する内容：

PEPNet-Japan で実施している相談対応事業での対応内容に準じる以下の内容

- ・ 大学における聴覚障害学生への支援に関すること  
(授業や大学生活での配慮、情報保障支援、支援技術の導入、補聴相談等)
- ・ 支援体制の構築に関すること  
(入学試験での対応、教職員研修、支援者養成、学内組織の整備、学外との連携等)
- ・ その他、聴覚障害学生への支援に関すること

相談員：PEPNet-Japan 相談対応事業委員、正会員大学・機関教職員 ほか

定員：10 組 (事前申込制)

スケジュール：

12 時 00 分～12 時 30 分 1 枠目 (5 組まで)

12 時 30 分～12 時 35 分 休憩・入れ替え

12 時 35 分～13 時 05 分 2 枠目 (5 組まで)

その他：

- ・ 必要に応じ各相談ブースに情報保障を配置します。
- ・ 事前申込のない方で、今後別の機会に相談したいことがある方は、個別相談会場内の受付にお越しください。



# 全体会Ⅱ



.....

.....

SYMPOSIUM 2019 





## 全体企画

時間:13:30~15:30 会場:3階 MO ホール

### 聴覚障害学生の『参加』を支える支援

#### —話し合い場面から考える—

司 会 : 村田 淳(京都大学 学生総合支援センター)

講 師 : 中野聡子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター)

有海順子(山形大学 障がい学生支援センター)

小佐野貴恵(山梨県立ろう学校)

- 討論の柱 ①聴覚障害学生の「参加」を阻害している要因やその時の心理状況を理解する  
②聴覚障害学生の「参加」を支える支援のあり方とは

#### 企画趣旨

障害者差別解消法の施行後、各高等教育機関においても、聴覚障害学生への合理的配慮が進められている。しかしながら、合理的配慮が提供されているにも関わらず、聴覚障害学生が講義等での議論や話し合いといった、集団でのコミュニケーションに「参加」しにくい状況が生じ、結果や結末だけを知る、ということも少なくない。聞こえる、聞こえないに関わらず、社会の一構成員として、議論を経た物事の決定プロセスに参画する経験は非常に重要であり、特に社会に出る前の学生時代にその経験を積んでおくことが、その後の社会生活に大きな影響を及ぼすものと考えられる。それが実現してはじめて、聴覚障害学生も「平等」な立場に立てるのではないだろうか。

そこで本企画では、聴覚障害学生の「参加」を阻害している要因やその時の心理状況について理解するとともに、聴覚障害学生が安心して「参加」できるための支援のあり方について、具体例を提示しながら議論を交わしたい。

合理的配慮を提供するだけに留まらず、聴覚障害学生一人ひとりが直面する物理的／心理的なバリアを包括的な観点で捉えた支援のあり方について、聴覚障害学生と場を共有するすべての方々に見つめ直してもらおう一助となれればと考えている。





## 【講師紹介】

村田 淳氏 （京都大学 学生総合支援センター 准教授）



2007 年より京都大学における障害学生支援に従事し、組織的な支援体制の構築や合理的配慮の提供に関するシステムの構築を担う。現在、同大学において障害学生支援ルームのチーフコーディネーターを担う一方、「高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）」のディレクターを兼務。全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）などで対外的な活動も担いつつ、日々、大学における障害学生支援のコーディネーターとして従事する実践家。

中野 聡子氏 （大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 講師）



博士（心身障害学）・学校心理士。聴覚障害児・者支援に関する著書・論文多数。最新の研究成果は、「オンライン学術手話通訳教材集」（<http://sl-interpreting.org/>）で公開。5 歳の時に失聴。大阪大学で身体障害学生支援全般についてマネジメントを行い、部局主体の合理的配慮の提供をサポートしている。また、障害をもつ当事者同士として、ちょっとした悩みも共有しながら、障害学生が自分自身の力で支援や環境をよりよいものに変えていけるようなサポートと関わりを大切にしている。



有海 順子氏 （山形大学 障がい学生支援センター 准教授）



筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了、博士（障害科学）

学生時代に同学年の聴覚障害学生や先輩と出会ったことがきっかけで情報保障支援の世界に入る。聴覚障害学生支援グループのスタッフとして活動し始めたときに、手話がわからずミーティングに全くついていけない経験をしたことで、普段友人や先輩が感じていたであろう疎外感を痛感し、「場の参加を真に支える支援者」になることを強く決意。2012 年から筑波大学障害学生支援室専任教員として勤務し、現在は山形大学障がい学生支援センターにて、さまざまな障がい学生の意思を育て表明することと授業参加の保障をサポートしている。

小佐野 貴恵氏 （山梨県立ろう学校 教諭）



宮城教育大学卒業、同大学大学院修了

2 歳頃聴覚障害と判明、幼児期に言語訓練に通いながら地域の幼稚園に通う。地域の小学校、中学校、私立の高校に通い、大学に入ってから手話を覚え、情報保障に出会う。大学時代に大学内の有志団体「情報保障の会」でノートテイクの利用および運営（コーディネーター、練習会・反省会の運営等）、「宮城県聴覚障害学生の会」や「宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター（現 みやぎ DSC）」にて事務局などの活動を行った。



# 日本聴覚障害学生 高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 紹介



.....  
SYMPOSIUM 2019





## こんな活動をしています

### 聴覚障害学生支援に関わる相談対応事業

PEPNet-Japan では、全国の大学から寄せられる聴覚障害学生支援に関わる相談に対し、全国的な大学・機関間のネットワークと正会員大学・機関の持つ支援ノウハウを活かし、対応します。聴覚障害学生への合理的配慮の提供や支援体制構築等に関する資料提供、情報提供、講師等の派遣・紹介、個別事例への助言などを行います。

#### 相談内容の例

- 支援体制づくりや支援の具体的な方法についてアドバイスがほしい
- 他大学での支援の事例を知りたい
- 支援に関する資料やテキスト、文献を入手したい
- FD/SD 研修会や支援者養成講座の講師を派遣してほしい
- 支援技術（遠隔情報保障など）の導入をサポートしてほしい



#### ご利用いただける方

主な対象：大学等の高等教育機関で障害学生への支援・教育に携わる教職員の方

その他、聴覚障害学生（進学予定者も含む）、支援関係者、保護者等からのご相談もお受けします。

#### 対応体制

相談内容や大学の状況に応じ、以下のような対応を行います。

（※印は PEPNet-Japan 正会員大学・機関が協力）

- PEPNet-Japan 事務局や相談対応事業委員からの助言提供
- 資料の提供（PEPNet-Japan 発行の教材は無償）
- 関連機関等の紹介・ネットワーク形成のサポート
- 研修内容に応じた講師の派遣・紹介※
- 見学受け入れや事例提供を行う大学の紹介※
- 支援技術に関する訪問指導や運用上の助言提供※

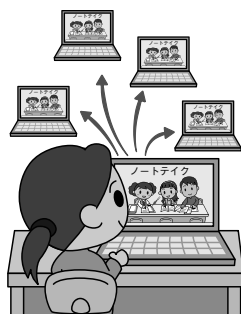
### 聴覚障害学生支援MAP (PEPナビ) の運営

全国の高等教育機関における聴覚障害学生支援の情報を掲載するデータベースで、各大学の支援状況や支援事例を共有することができます。

（登録制、一部は自由に閲覧可能）

URL : <http://pepnavi.net>

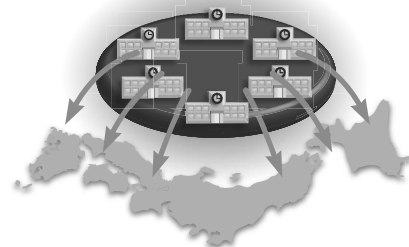
（下のQRコードからご覧いただけます）



### 大学全体の支援体制引き上げ

全国の大学で、より高いスタンダードでの合理的配慮の提供がなされていくよう、基盤の構築を図っています。

正会員大学・機関間の情報交換会を開催するほか、正会員大学・機関のリードによって各地域の情報交換会等が開催されるよう促進しています。



### 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



PEPNet-Japanの活動成果を広く発信するとともに、全国の大学の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年1回シンポジウムを開催しています。

### 各種教材の作成・配布



DVDシリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」をはじめとする多様な教材を作成し、全国の大学・機関関係者等、ご希望の方に広く配布しています。

### Web による情報発信

作成した教材をはじめ、聴覚障害学生支援に関わる多彩な情報をウェブサイトで発信しています。

URL : <http://www.pepnet-j.org/>

（右のQRコードからご覧いただけます）



### Twitterアカウントの運用

PEPNet-Japanで取り組んでいる事業の様子やイベントのお知らせ、成果物のご案内をしています。

PEPNet-Japan公式アカウント：

@PEPNet\_Japan

（右のQRコードからフォローできます）



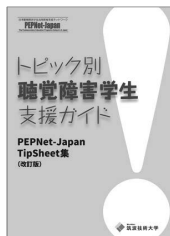


## これまでの活動成果

### トピック別聴覚障害学生支援ガイド

—PEPNet-Japan TipSheet集(改訂版)—

聴覚障害や情報保障の基本的な知識に加え、障害者差別解消法に関わるトピックを追加した支援関係者必読の冊子。Webでリーフレット版も公開しています。



### 聴覚障害学生サポートブック

—18歳から学ぶ合理的配慮—

聴覚障害学生や高校生が、「障害者差別解消法」や大学について知り、書き込み式のワークを通して自らのニーズを整理し伝えることで、一歩前に踏み出すための冊子です。



### DVD シリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」

支援に関わる各種トピックスについて解説したDVDシリーズ。支援の手順や意義、聴覚障害学生本人の意識など、さまざまなテーマをドラマやドキュメントで示しています。



### 聴覚障害学生の意思表示支援のために

—合理的配慮につなげる支援のあり方—

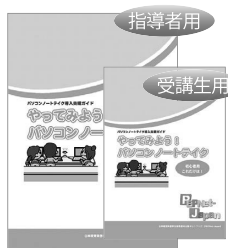
聴覚障害学生の意思表示をどのように促し、支えているか、支援担当教職員のインタビュー結果などをまとめています。(2016年度モデル事例構築事業主幹：関東聴覚障害学生サポートセンター)



### やってみよう！パソコンノートテイク

—パソコンノートテイク導入支援ガイド—

「やってみたいけど難しそう」そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭。必要な機器から接続設定・入力の基礎まで、簡単にわかりやすく解説しています。



### やってみよう！連係入力

—パソコンノートテイクスキルアップ！教材集—

パソコンノートテイクに必要な連係入力を習得するための教材集。各種練習方法を紹介しているほか、自宅で連係入力の練習ができるソフトウェアも付属しています。



### 大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でお買い求め下さい

「ノートテイクを養成したいけど、どうすれば？」そんな声にお応えして作成したハンドブック。講座開講の流れからスキルアップの方法まで丁寧に解説しています。



### 一歩進んだ聴覚障害学生支援

一般書店でお買い求め下さい

はじめて聴覚障害学生が入ることになったときの対応方法から、人材確保、支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルです。



### 大学での手話通訳ガイドブック

—聴覚障害学生のニーズに応えよう！—

聴覚障害学生が大学で望む手話通訳とは何かを、座談会や通訳事例を通して説明した解説書。通訳映像を見ながら具体的なニーズについて学ぶことができます。



### 聴覚障害学生サポートネットワークの構築をめざして

—アメリカ視察報告書—

PEPNet-Japan がこれまでに実施してきたアメリカ視察の報告集。第1～3回視察の結果をまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた特別編を発行しています。





## 支援技術導入リーフレット

ITを活用した支援技術のノウハウをコンパクトに収録したリーフレット。遠隔情報保障に関する技術やビデオ教材への字幕挿入など、5テーマを公開しています。



## 遠隔情報保障実践マニュアル・事業成果報告書

遠隔情報保障支援の導入に関わる手順や多様な活用事例を紹介したマニュアルと、研修会報告を含む4年間の事業報告書。基礎知識から将来像まで網羅した2冊です。



## 東北地区大学支援プロジェクト報告書

東日本大震災の発生後、東北地区の大学が学内の支援体制を取り戻すまでの間、遠隔地からパソコンノートブックを提供する試みを実施しました。本冊子はこの報告書です。



## 東北地区／熊本地区大学支援プロジェクト



2011年に発生した東日本大震災の際には、被災地域の聴覚障害学生の安否確認に協力しました。授業開始後は、全国から遠隔でパソコンノートブックを提供する試みを実施し、13の連携大学から4大学約20名の聴覚障害学生に対し、のべ約300コマへ支援を行いました。また、2016年に発生した熊本地震の際には、全国4大学（うち2大学は東北地区で支援を利用）から被災地の聴覚障害学生に対し、遠隔情報保障支援を提供しました。

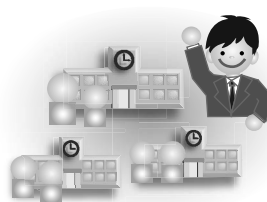
## 大学教職員のための地域通訳依頼ハンドブック

—よりよい連携を目指して—

大学での情報保障（手話通訳・文字通訳）を地域通訳に依頼する際に活用できるハンドブック。地域通訳者の養成方法や依頼手順のほか、関係者との連携のあり方等を詳細に記載しています。（2013・2014年度モデル事例構築事業 主幹：みやぎDSC）



## モデル事例の構築と成果発信



これまで取り組み事例が少なかったり支援が困難であった分野を取り上げ、新たな支援事例の創出を図ってきました。これまでの成果は事例集やハンドブック等にまとめ発信しています。

## 学生同士がつながる支援コミュニティづくり

—支援学生の「主体性」を引き出すマネジメント—

支援学生がより主体的に活動し、支援の質向上や支援組織の発展的な運営に貢献するための事例集。具体的な実践例を多数収録しています。（2013・2014年度モデル事例構築事業 主幹：みやぎDSC）



## 各種研修会の開催



これまでの活動で得た知見や作成教材をもとに、聴覚障害学生支援に関わる研修プログラムを開発し、モデル研修会を開催してきました。

例) 障害学生支援教職員研修会  
聴覚障害学生支援技術講習会  
聴覚障害学生エンパワメント研修会 ほか

## 聴覚障害学生のエンパワメント事例集

Webコンテンツ

聴覚障害学生が自ら周囲の人々に働きかけ、必要な支援を生み出す「エンパワメント」に関して、基本的な概念や大学で取り組むことのできるさまざまな実践について紹介しています。



## 地域ネットワークの形成支援



近隣の大学の支援担当者が集まり共同で研修会を企画する機会を通じて、地域ネットワークの形成をサポートしてきました。

2012年度 関西地区・東北地区  
2013年度 北海道地区  
2014年度 東海地区  
2015年度 沖縄地区



## 運営体制

PEPNet-Japanは2018年度から新たな体制となり、より幅広い大学・機関及び個人の方に参画していただける組織となりました。シンポジウムや教材の提供など、従来通りすべての方にご参加・利用いただけるものもありますが、会員になるとより密な情報提供・情報交換が可能になります。ぜひご入会ください。

### 会員種別

#### (1)正会員大学・機関

聴覚障害学生支援の体制を有し聴覚障害学生支援の実績のある大学、または聴覚障害学生支援を主たる活動目的とし、大学の支援体制構築に貢献した実績のある機関。

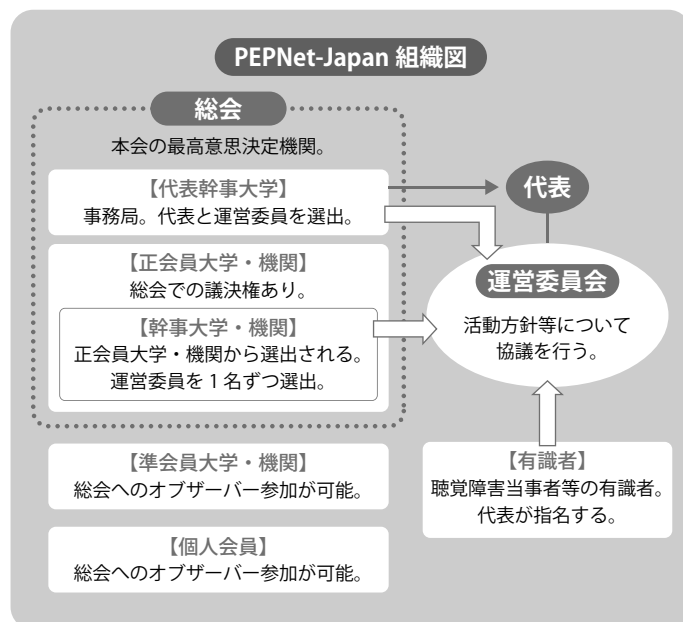
※正会員大学・機関は全国の大学等に向けた支援ノウハウの発信など、PEPNet-Japanの活動に貢献する役割を担います。

#### (2)準会員大学・機関

聴覚障害学生支援の情報を得たい、または聴覚障害学生支援に関心のある大学、大学内の組織、または機関。

#### (3)個人会員

聴覚障害学生支援の情報を得たい、または聴覚障害学生支援に関心のある個人。



### 会員になると…

メールによる情報配信サービス **正会員** **準会員** **個人会員**

会員の方を対象に、聴覚障害学生支援に関する情報をお届けするサービスです。事務局または登録者の方からお寄せいただいた情報をメールで配信します。

情報交換のためのメーリングリストへの参加 **正会員** **準会員**

※正会員または準会員の大学に所属する教職員限定

聴覚障害学生支援に関する情報交換や意見交換ができるメーリングリストを運営しています。登録者の方が直接投稿でき、他大学の方とのやり取りや最新情報の共有にご活用いただけます。

情報交換会への参加 **正会員**

正会員大学・機関の方々を参加対象とした情報交換会を年に3回開催します。聴覚障害学生支援に関するトピックについて情報交換や事例報告を行います。

イベントや成果物の先行案内（詳細は会員種別や内容に応じて決定）

PEPNet-Japan が主催する各種イベントの案内や成果物発行のお知らせを、一般案内に先行してお届けします。正会員大学・機関には優先申込のご案内をする場合があります。

### 入会方法

入会申込の方法は、会員種別ごとに異なります。詳しくはPEPNet-Japanウェブサイトでご確認ください。

	入会単位	情報配信サービス	情報交換会への参加	情報交換ML(教職員限定)	シンポジウム等の案内	成果物	事業への参加	総会議決権	幹事大学・機関への立候補
正会員大学・機関	大学等の高等教育機関（部署単位は不可）、関連機関・団体	○	○	○ 大学等の教職員のみ	◎ 優先参加の可能性あり。 対象条件のあるものを除く	先行配布	○ 中心的に参加可	○	○
準会員大学・機関	大学等の高等教育機関および部署・組織、関連機関・団体	○	×	○ 大学等の教職員のみ	○ 対象条件のあるものを除く	先行案内	×	×	×
個人会員	個人	○	×	×	○ 対象条件のあるものを除く	一般案内	×	×	×



## 正会員大学・機関

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、全国の正会員大学・機関と共に聴覚障害学生支援のパイオニアとして、聴覚障害学生のニーズに寄り添い、時代に横たわるさまざまな課題に取り組みながら、新たな事例やノウハウを生み出し、発信していくことを使命としています。あわせて全国の大学における聴覚障害学生支援の実態に目を向け、そこから学びを得るとともに、支援が行き届いていない大学における支援体制を引き上げていくことが、我々の責務であることを自認しています。これらのミッションを達成し、よりよい支援体制を1つでも多くの大学等に広げていくため、「高めあう」「ともに学ぶ」「協働する」「発信する」をキーワードに活動を展開しています。

2019年4月現在、32大学・機関に正会員としてご登録頂いております。各大学の取り組みは、聴覚障害学生支援MAP（PEPナビ：<http://pepnavi.net>）に詳しく掲載されています。

### 札幌学院大学★



聴覚障がい学生と支援学生、教職員が協力して支援者養成や手話学習、啓発活動に取り組んでいます。教職員は聴覚障がい学生や支援学生の相談にも対応しています。

（担当：アクセシビリティ推進委員会）

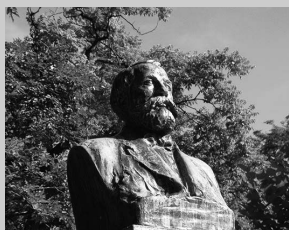
### みやぎDSC★



宮城を拠点に主に東北地方の高校、大学等の聞こえない・聞こえにくい学生・支援学生・教職員への支援を行っています。活動の柱は、「相談事業」「普及・啓発事業」「養成・研修事業」「ネットワーキング事業」です。

（担当：事務局）

### 北海道大学



本学では、すべての学生が公平に学ぶ機会を得られるよう、利用学生との相談を通して、必要な支援を行っています。また、支援学生の養成や理解啓発にも力を入れています。

（担当：アクセシビリティ支援室）

### 群馬大学★



文字通訳および手話通訳による情報保障、専任スタッフと障害別専門教員によるサポートを提供しています。また、PCテイクや手話通訳に関する講習等を行い支援力向上に努めています。

（担当：障害学生サポートルーム）

### 北星学園大学



臨床心理士、CSW等との面談を経て、支援を必要とする学生一人一人に合わせた合理的配慮に基づく支援を決定しています。情報保障支援学生の育成や他部署との連携も行っています。

（担当：アクセシビリティ支援室）

### 東京大学



バリアフリー支援室では専門知識を有するスタッフが常駐し、障害のある学生・教職員への支援を行っています。聴覚障害のある学生へは、PCテイク等の情報保障や、補聴システムによる聴覚補償等を実施しています。

（担当：バリアフリー支援室）

### 宮城教育大学★



利用学生のニーズに応じて手書きやPCを主としたノートテイクを行い、音声認識通訳等の情報保障にも積極的に取り組んでいます。また、学生が中心となり練習会や各種交流会等を実施し、学生と共に支援体制を作っています。

（担当：しょうがい学生支援室）

### 早稲田大学★

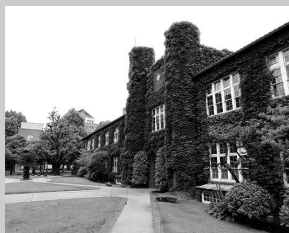


障がい学生支援室と学部・研究科が連携して、ノートテイク、PC通訳、手話通訳など、修学に必要な支援を行っています。障がいに関する授業の実施などの理解啓発、新しい支援技術の導入にも取り組んでいます。

（担当：障がい学生支援室）



## 立教大学



立教大学は、しょうがいの有無にかかわらず、学生が相互に学び合い共に支え合う、開かれたキャンパスを目指します。授業の支援、サポート学生の育成、講座などを行っています。

(担当：しょうがい学生支援室)

## 静岡福祉大学



本学では、障害の有無に関わらず共に社会参加できる教育環境の実現を目指しています。これにより、学生が卒業時に、自らの必要な支援を第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げられるようにしています。

(担当：学生支援総合センター)

## 日本社会事業大学★



聴覚障害当事者の社会福祉従事者の育成を図っています。支援にあたっては学生の自己擁護力と支援活用力の向上を最も大切にしています。支援学生も未来のソーシャルワーカーとして役立つ経験をしています。

(担当：聴覚障害者大学教育支援プロジェクト)

## 名古屋大学



障害学生支援室では、障害学生への合理的配慮、教職員へのコンサルテーション、施設設備・システム・制度のユニバーサルデザイン化を推進するため学内連携等に取り組んでいます。

(担当：障害学生支援室)

## 関東聴覚障害学生サポートセンター★



情報保障体制構築の支援に加え聴覚障害学生の心理面での相談機能の充実を目指しています。大学関係者だけでなく、ろう学校や通訳者からの相談・お問い合わせにも対応しています。

(<http://kantou-saposen.main.jp/index.html>)

## 愛知教育大学★



愛知教育大学では、学生が中心となって、パソコンテイクを主に支援を行っています。毎日昼休みに開く練習会を兼ねた交流会に加え、遠隔システムを利用した連携練習などを行って、よりよい支援を目指しています。

(担当：修学支援室)

## 放送大学★



放送大学では現在テレビの授業番組(放送時間の約50%)が字幕化されています。今後、さらに字幕率を向上させていきます。また、新しくラジオの授業番組のインターネット配信に字幕を付する取り組みを行っております。

## 日本福祉大学★



2015年度より学生支援センターとして、障害をオープンにしない学生も含め、様々な困り感のある学生、配慮が必要と思われる学生を包括的に支援しています。すべての学生が共に学び成長することを目指しています。

(担当：学生支援センター)

## 千葉大学



本学では学生支援課が中心となり、障害学生の支援体制の整備を行っており、聴覚障害学生に対してはノートテイク会の学生と連携し、主にパソコンテイクによる支援を行っております。

(担当：学生支援課)

## 同志社大学★



障がいのある学生が、他の学生と等しい条件で大学生活を送れるよう、約250名のスタッフが講義保障(PC通訳・NT)を中心に様々な支援を行っています。学外からのPC通訳要請にも可能な範囲で応じています。

(担当：障がい学生支援室)

## 静岡大学



身体障害・発達障害・精神障害があるために修学上の困難を感じている学生に、専任教員が相談に応じ、特性やニーズに合わせて必要な支援や配慮の提供をコーディネートしています。

(担当：障害学生支援室(修学サポート室))

## 京都大学

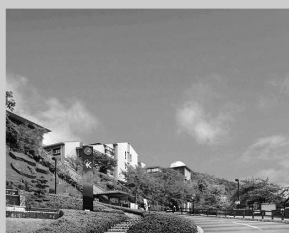


障害学生支援ルームでは、聴覚障害のある学生の個々の状況やニーズ、授業の内容・方法等の環境的要因をふまえて、様々な形(各種通訳、機器の使用等)で情報保障を行っています。

(担当：障害学生支援ルーム)



## 京都産業大学



2017年5月に「教職員対応ガイドライン」を制定し、障害のある学生が学ぶことのできる環境を整え、教育の機会均等の提供とともに、障害者差別解消に向けて、全学的に取り組んでいます。  
(担当：障害学生教育支援センター)

## 愛媛大学★



愛媛大学では、障がいのある学生を支援するために、「障がい者修学支援委員会」「バリアフリー推進室」「障害学生支援ボランティア」を設置し、学生が主体となって障がいのある学生支援に取り組んでいます。  
(担当：バリアフリー推進室)

## 特定非営利活動法人ゆに



京都を中心に支援者派遣や養成、交流会、学生・教職員からの相談受付などを行っています。学外の支援者として、広く聴覚障害学生のための環境整備ができるようお手伝いをしています。  
(担当：事務局)

## 松山大学



松山大学では、学生支援室を中心に、授業や学生生活の支援に関する相談を受け付け、指導教授や関係各部署と連携を取り、障がい学生等に必要な支援のコーディネートを行います。  
(担当：学生部学生支援室)

## 大阪大学★



全学的な修学支援体制のもと、合理的配慮として情報保障の提供等を行っています。支援の質を含め、聴覚障害学生が自分に必要な環境を整備できるような支援を重視しています。  
(担当：キャンパスライフ健康支援センター)

## 福岡教育大学



2015年8月1日に障害学生支援室は更なる支援の充実を図るため障害学生支援センターとして発足しました。学生への教育及び学生生活の支援の他、各種講習会・研修会の開催や、他大学生との連携を行っています。  
(担当：障害学生支援センター)

## 大阪教育大学★



2012年度から「障がい学生修学支援ルーム」を設置し、教員・事務スタッフが相談・支援にあたっています。支援学生と連携し手話・ノートテイク・パソコンテイクなどニーズに応じた支援を行っています。  
(担当：障がい学生修学支援ルーム)

## 九州大学



本学では障害の有無に関わらず学生の個性と能力を発揮できる修学環境整備をしています。PCテイク等の支援提供や人材育成を通し、全学でインクルーシブな環境作りを目指しています。  
(担当：インクルージョン支援推進室)

## 関西学院大学★



総合支援センターは、障がい学生支援を全学的に行う相談窓口としての機能を持ち、4名のコーディネーターが学部と連携し支援にあたっています。ノートテイク、映像の字幕付け等、情報保障を提供しています。  
(担当：キャンパス自立支援室)

## 九州ルーテル学院大学



感恩奉仕の精神の下、一人ひとりの学生のニーズを大切にした支援を行っています。聴覚障がい学生支援では、PCテイクや補聴機器による情報保障の他、手話サロンを開催しています。  
(担当：障がい学生サポートルーム)

## 広島女学院大学



聴覚障がい学生のキャンパスライフを、講義保障を中心に、教務課・学生課・支援室は連携してサポートしています。PCテイクを行う支援学生の養成にも積極的に取り組んでいます。  
(担当：障がい学生高等教育支援室)

## 筑波技術大学★★



聴覚・視覚障害学生を対象とした日本で唯一の高等教育機関で、天久保キャンパスには200名以上の聴覚障害学生が学んでいます。また、障害者の高等教育を進める全国共同利用拠点にも指定されています。  
(担当：障害者高等教育研究支援センター)



## 運営委員会

### 代表

石原保志 筑波技術大学・学長

### 運営委員

井坂行男 大阪教育大学教育学部・教授  
 三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授  
 藤野友紀 札幌学院大学人文学部・准教授  
 松崎 丈 宮城教育大学教育学部・准教授／みやぎ DSC・代表  
 金澤貴之 群馬大学教育学部・教授  
 斉藤くるみ 日本社会事業大学・教授  
 山本 篤 関東聴覚障害学生サポートセンター・代表  
 志磨村早紀 早稲田大学スチューデントダイバーシティセンター  
 ・障がい学生支援コーディネーター  
 広瀬洋子 放送大学・教授  
 太田知啓 愛知教育大学なんでも相談室・学務部長  
 末盛 慶 日本福祉大学学生支援センター・センター長  
 阪田真己子 同志社大学学生支援センター・障がい学生支援室長  
 中野聡子 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター・講師  
 松岡克尚 関西学院大学人間福祉学部・教授  
 加藤哲則 愛媛大学教育学部・准教授  
 佐藤正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長  
 白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

## 事務局

### 事務局長

白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

### 事務局長補佐

萩原彩子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助教  
 事業コーディネーター

磯田恭子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助教  
 中島亜紀子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助教  
 石野麻衣子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・特任研究員

### 事務局員

三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授  
 松久保大作 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長  
 河野純大 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授

### 事務補佐員

吉田未来 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・技術補佐員  
 関戸美音 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・技術補佐員

(2019年8月現在)

## PEPNet-Japan 正会員大学・機関

札幌学院大学★  
 北海道大学  
 北星学園大学  
 宮城教育大学★  
 みやぎDSC★  
 群馬大学★  
 東京大学  
 早稲田大学★  
 立教大学  
 日本社会事業大学★  
 関東聴覚障害学生サポートセンター★  
 放送大学★  
 千葉大学  
 静岡大学  
 静岡福祉大学  
 名古屋大学  
 愛知教育大学★  
 日本福祉大学★  
 同志社大学★  
 京都大学  
 京都産業大学  
 特定非営利活動法人ゆに  
 大阪大学★  
 大阪教育大学★  
 関西学院大学★  
 広島女学院大学  
 愛媛大学★  
 松山大学  
 福岡教育大学  
 九州大学  
 九州ルーテル学院大学  
 筑波技術大学★★

We are the ones  
who make a difference



★は幹事大学・機関 ★★は代表幹事大学

## お問い合わせ先

PEPNet-Japan

検索

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15  
 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター  
 URL <http://www.pepnet-j.org/>  
 TEL/FAX 029-858-9438  
 E-mail [pepj-info@pepnet-j.org](mailto:pepj-info@pepnet-j.org)  
 担当：白澤麻弓（筑波技術大学 准教授）

**PEPNet-Japan**  
 国立大学法人  
**筑波技術大学**

本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーション  
 スキーム構築事業」の活動の一部です。





 **MEMO** 

[illegible]



# 日本聴覚障害学生 高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

## 正会員大学・機関 活動紹介



SYMPOSIUM 2019



掲載している各大学の情報は、PEPNet-Japan で運営する  
【聴覚障害学生支援 MAP (PEP なび)】  
より引用しています。  
支援に関するより詳細な情報は、PEP なびをご覧ください。  
なお、大学により、PEP なびに登録していない場合がございます。  
その場合は、各問い合わせ先まで直接お問い合わせください。

聴覚障害学生支援 MAP PEP なび  
<http://pepnavi.net/>





## 札幌学院大学

設置形態	私立大学	学生数	2,540名
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台11番地		
担当部署	サポートセンター		
HP	<a href="http://www.sgu.ac.jp/campuslife/support/j09tjo000002m0yu.html">http://www.sgu.ac.jp/campuslife/support/j09tjo000002m0yu.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学生支援課 サポートセンター shien@ims.sgu.ac.jp Tel 011-375-8567	
	入学試験	広報入試課 入試係 nyusi@ims.sgu.ac.jp Tel 0120-816-555	

## 北海道大学

設置形態	国立大学	学生数	約18,000名
所在地	〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目		
担当部署	学生相談総合センター アクセシビリティ支援室		
HP	準備中		
問い合わせ	障害学生支援	アクセシビリティ支援室 aso@sacc.hokudai.ac.jp Tel/FAX 011-706-7463	
	入学試験	学務部入試課 acinfo@academic.hokudai.ac.jp Tel 011-706-7484 FAX 011-706-7488	

## 北星学園大学

設置形態	私立大学	学生数	4,370名
所在地	〒004-8631 北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号		
担当部署	アクセシビリティ支援室		
HP	<a href="http://cgw.hokusei.ac.jp/support/accessibility/">http://cgw.hokusei.ac.jp/support/accessibility/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	アクセシビリティ支援室 acc-support@hokusei.ac.jp Tel 011-891-2731 (代表)	
	入学試験	入試課 <a href="http://entry.hokusei.ac.jp">http://entry.hokusei.ac.jp</a> (受験生WEB) Tel 011-891-2731 (代表)	

## 宮城教育大学

設置形態	国立大学	学生数	1,586名
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149		
担当部署	しょうがい学生支援室		
HP	<a href="http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/">http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	しょうがい学生支援室 Tel/Fax 022-214-3651 csd★adm.miyakyo-u.ac.jp (★を@に変えてください。)	
	入学試験	入試課 Tel/Fax 022-214-3713 w3-exam★adm.miyakyo-u.ac.jp (★を@に変えてください。)	



## 群馬大学

設置形態	国立大学	学生数	6,500名
所在地	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地		
担当部署	障害学生サポートルーム		
HP	<a href="http://syougai.hess.gunma-u.ac.jp/">http://syougai.hess.gunma-u.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障害学生サポートルーム (荒牧) Tel/Fax 027-220-7114 (桐生) Tel 0277-30-1058 a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp	
	入学試験	入試受入課 Tel 027-220-7154 Fax 027-220-7155 g-admission@jimu.gunma-u.ac.jp ※入試における受験上の配慮申請には期限があります。募集要項を十分に確認の上、早めに申請をするようにしてください。	

## 東京大学

設置形態	国立大学	学生数	28,000名
所在地	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1		
担当部署	バリアフリー支援室		
HP	<a href="http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/">http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	バリアフリー支援室 spds-staff.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 本郷支所 Tel 03-5841-1715 Fax 03-5841-1717 駒場支所 Tel 03-5465-8944 Fax 03-5465-8952	

## 早稲田大学

設置形態	私立大学	学生数	53,000名
所在地	〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス3号館1階		
担当部署	障がい学生支援室		
HP	<a href="http://www.waseda.jp/inst/dsso/">http://www.waseda.jp/inst/dsso/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障がい学生支援室 Tel 03-5286-3747 Fax 03-5286-0642 shienshitsu@list.waseda.jp	
	入学試験	入学センター Tel 03-3203-4331 Fax 03-3203-4323	

## 立教大学

設置形態	私立大学	学生数	20,000名
所在地	〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1		
担当部署	しょうがい学生支援室		
HP	<a href="http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/barrier_free/overivew.html">http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/barrier_free/overivew.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	しょうがい学生支援室 sien@rikkyo.ac.jp	
	入学試験	入学センター Tel 03-3980-2660	



## 日本社会事業大学

設置形態	私立大学	学生数	2,500名
所在地	〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30		
担当部署	聴覚障害学生支援プロジェクト室		
HP	<a href="http://deafhohproject.com/">http://deafhohproject.com/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	聴覚障害学生支援プロジェクト室 Fax 042-496-3064 projectd@jcsu.ac.jp	

## 放送大学

設置形態	私立大学	学生数	約85,000名
所在地	〒261-8586 千葉県千葉市美浜区若葉2-11		
担当部署	障がいに関する学生支援相談室		
HP	<a href="https://www.ouj.ac.jp/hp/sisetu/sisetu05.html">https://www.ouj.ac.jp/hp/sisetu/sisetu05.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障がいに関する学生支援相談室 barrier-free@ouj.ac.jp Tel 043-298-3037 Fax 043-298-4381	

## 千葉大学

設置形態	国立大学	学生数	約14,000名
所在地	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33		
担当部署	学務部学生支援課		
HP	<a href="http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/support/shogaisoudan.html">http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/support/shogaisoudan.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学務部学生支援課 学生相談室 gakusei-support@chiba-u.jp Tel 043-290-2168 Fax 043-290-2165	
	入学試験	学務部入試課 Tel 043-290-2182 Fax 043-290-2186	

## 静岡福祉大学

設置形態	私立大学	学生数	727名
所在地	〒425-8611 静岡県焼津市本中根549-1		
担当部署	学生支援総合センター		
HP	<a href="http://www.suw.ac.jp/">http://www.suw.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学生教務課 (担当：見原) gaku-ofc@suw.ac.jp Tel 054-623-7450	
	入学試験	入試広報課 Tel 054-623-7451	



## 静岡大学

設置形態	国立大学	学生数	約10,000名
所在地	〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836		
担当部署	学生支援センター 障害学生支援室		
HP	<a href="http://www.ossn.support.shizuoka.ac.jp/">http://www.ossn.support.shizuoka.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	<b>【静岡】障害学生支援室（コムニス）</b> syougai-s@adb.shizuoka.ac.jp <b>【浜松】障害学生支援室（こみさぼ）</b> syougai-h@adb.shizuoka.ac.jp	
	入学試験	入試課 Tel 054-238-4464/4465 FAX 054-237-2024	

## 名古屋大学

設置形態	国立大学	学生数	約16,500名
所在地	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町		
担当部署	障害学生支援室		
HP	<a href="http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/">http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障害学生支援室 osd@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp Tel 052-789-4756	
	入学試験	入試課 nyuusi@adm.nagoya-u.ac.jp Tel 052-789-5765	

## 愛知教育大学

設置形態	国立大学	学生数	約4,000名
所在地	〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1		
担当部署	なんでも相談室		
HP	<a href="https://www.aichi-edu.ac.jp/campus/support/support.html">https://www.aichi-edu.ac.jp/campus/support/support.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	なんでも相談室 gakuseishien2@m.auecc.aichi-edu.ac.jp Tel 0566-26-2677	
	入学試験	入試課 Tel 0566-26-2202	

## 日本福祉大学

設置形態	私立大学	学生数	約5,300名
所在地	〒470-2531 愛知県知多郡美浜町奥田		
担当部署	学生支援センター		
HP	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm">http://www.n-fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学生支援センター Tel 0569-87-2432 support@ml.n-fukushi.ac.jp	
	入学試験	入学広報課 Tel 0569-87-2212	



## 同志社大学

設置形態	私立大学	学生数	28,932名
所在地	〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入		
担当部署	障がい学生支援室		
HP	<a href="http://challenged.doshisha.ac.jp/">http://challenged.doshisha.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	京田辺校地 障がい学生支援室 Tel 0774-65-7411 jit-care@mail.doshisha.ac.jp 今出川校地 障がい学生支援室 Tel 075-251-3273 ji-care@mail.doshisha.ac.jp	
	入学試験	入学センター Tel 075-251-3210 ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp	

## 京都大学

設置形態	国立大学	学生数	23,000名
所在地	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町		
担当部署	障害学生支援ルーム		
HP	<a href="https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/support/">https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/support/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学生総合支援センター 障害学生支援ルーム Tel 075-753-2317 s-sien@mail.adm.kyotou.ac.jp	
	入学試験	教育推進・学生支援部 入試企画課入試第一掛 Tel 075-753-2521, 2522	

## 京都産業大学

設置形態	私立大学	学生数	13,800名
所在地	〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山		
担当部署	障害学生教育支援センター		
HP	<a href="https://www.Kyoto-su.ac.jp/campuslife/os_support/index.html">https://www.Kyoto-su.ac.jp/campuslife/os_support/index.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障害学生教育支援センター Tel 075-705-1981 shogai-support@star.kyoto-su.ac.jp	
	入学試験	入学センター Tel 075-705-1437 info-adm@star.kyoto-su.ac.jp	

## 大阪大学

設置形態	国立大学	学生数	24,348名
所在地	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1		
担当部署	キャンパスライフ健康支援センター		
HP	<a href="https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/">https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	キャンパスライフ健康支援センター 相談支援部門 Tel 06-6850-6107 campuslifekenkou-acsoffice.osaka-u.ac.jp	



## 大阪教育大学

設置形態	国立大学	学生数	4,800名
所在地	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1		
担当部署	障がい学生修学支援ルーム		
HP	<a href="https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/sienroom/">https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/sienroom/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障がい学生修学支援ルーム Tel 072-978-3479 sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp	
	入学試験	入試課 Tel 072-978-3324 nyushika@bur.osaka-kyoiku.ac.jp	

## 関西学院大学

設置形態	私立大学	学生数	24,800名
所在地	〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155		
担当部署	総合支援センターキャンパス自立支援室		
HP	<a href="https://www.kwansei.ac.jp/students/students_m_004599.html">https://www.kwansei.ac.jp/students/students_m_004599.html</a>		
問い合わせ	障がい学生支援	学生活動支援機構 総合支援センター キャンパス自立支援室 (西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパス) Tel 0798-54-7034 jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp (神戸三田キャンパス) Tel 079-565-7903 jiritsu-ksc@kwansei.ac.jp	
	入学試験	高大接続センター入試課 Tel 0798-54-6135	

## 広島女学院大学

設置形態	私立大学	学生数	1,400名
所在地	〒732-0063 広島県広島市東区牛田東4-13-1		
担当部署	障がい学生高等教育支援室		
HP	<a href="https://www.hju.ac.jp/life/establishment/handicap.php">https://www.hju.ac.jp/life/establishment/handicap.php</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障がい学生高等教育支援室 Tel 082-228-0386 (代表) shojimu@gaines.hju.ac.jp	
	入学試験	入試課 Tel 082-228-8365 nyushi@gaines.hju.ac.jp	

## 愛媛大学

設置形態	国立大学	学生数	9,341名
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番		
担当部署	バリアフリー推進室		
HP	<a href="http://bfree.office.ehime-u.ac.jp/">http://bfree.office.ehime-u.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	バリアフリー推進室 Tel/Fax 089-927-8114 bfree@stu.ehime-u.ac.jp	



## 松山大学

設置形態	私立大学	学生数	約5,700名
所在地	〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番地2		
担当部署	学生部学生支援室		
HP	<a href="https://www.matsuyama-u.ac.jp/life/shien/shien-ds-support/">https://www.matsuyama-u.ac.jp/life/shien/shien-ds-support/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	学生部学生支援室 mu-gaksup @matsuyama-u.jp Tel 089-926-8212	
	入学試験	入学広報課 mu-nyusi @matsuyama-u.jp Tel 089-926-7139	

## 福岡教育大学

設置形態	国立大学	学生数	3,000名
所在地	〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1		
担当部署	障害学生支援センター		
HP	<a href="http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/shien/">http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/shien/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障害学生支援センター Tel 0940-72-6062 csd-staff @fukuoka-edu.ac.jp	
	入学試験	入試課 Tel 0940-35-1235 nyushi @fukuoka-edu.ac.jp	

## 九州大学

設置形態	国立大学	学生数	19,000名
所在地	〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744		
担当部署	キャンパスライフ・健康支援センター インクルージョン支援推進室		
HP	<a href="http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/organization/barrierfree.html">http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/organization/barrierfree.html</a>		
問い合わせ	障害学生支援	インクルージョン支援推進室 Tel 092-802-5859 Fax 092-802-5895 inclusion@chc.kyushu-u.ac.jp	
	入学試験	(1)一般入試(個別学力検査) (学務部入試課入試第一係) nyushiken1@jim.kyushu-u.ac.jp (2)大学入試センター試験・帰国子女・私費外国人留学生・国際コース入試 (学務部入試課入試第二係) nyushiken2@jim.kyushu-u.ac.jp (3)AO入試Ⅰ・Ⅱ・推薦入試 (学務部入試課入試第三係) aojim@jim.kyushu-u.ac.jp	

## 九州ルーテル学院大学

設置形態	私立大学	学生数	738名
所在地	〒860-8520 熊本県熊本市中央区黒髪3丁目12番16号		
担当部署	障がい学生サポートルーム		
HP	<a href="https://www.klc.ac.jp/">https://www.klc.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	障がい学生サポートルーム Tel 096-341-1168 Fax 096-343-0354 support@klc.ac.jp	
	入学試験	学務・入試センター	



## 筑波技術大学

設置形態	国立大学	学生数	約380名
所在地	〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15 (産業技術学部) 〒305-8520 茨城県つくば市春日4-12-7 (保健科学部)		
特色	聴覚障害学生・視覚障害学生が学ぶ大学のため、各教員が障害特性に応じた指導を行っている。		
HP	<a href="http://www.tsukuba-tech.ac.jp/">http://www.tsukuba-tech.ac.jp/</a>		
問い合わせ	障害学生支援	総務課 総務係 Fax 029-858-9312	
	入学試験	聴覚障害系支援課 教務係 Fax 029-858-9335 opencampus @ad.tsukuba-tech.ac.jp	

## みやぎDSC

設置形態	任意団体	創設	2003年4月1日
所在地	〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1丁目 5-12-801 高橋様方 FAX 022-200-8468		
代表運営スタッフ	松崎丈 16名(兼務あり)		
HP	<a href="https://www.facebook.com/groups/miyagidsc/">https://www.facebook.com/groups/miyagidsc/</a>		
問い合わせ	〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1丁目 5-12-801 高橋様方 Fax 022-200-8468		

## 関東聴覚障害学生サポートセンター

設置形態	任意団体	創設	1984年
所在地	事務所を持たず、大学での支援コーディネートや通訳活動、コンサルテーションのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。		
運営スタッフ	15名		
HP	<a href="http://kantou-saposen.main.jp/">http://kantou-saposen.main.jp/</a>		
問い合わせ	WebサイトのContactページよりお問い合わせください。		

## 特定非営利活動法人 ゆ に

設置形態	特定非営利活動法人	創設	2011年
所在地	〒603-8354 京都府京都市北区等持院西町60-10		
代表運営スタッフ	佐藤 謙 10名		
HP	<a href="http://www.unikyoto.com/">http://www.unikyoto.com/</a>		
問い合わせ	事務局 Tel 075-468-1633 Fax 075-468-1666 info@unikyoto.com		





 **MEMO** 

[illegible]



# 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 2019 発表内容紹介



SYMPOSIUM 2019



【前半 10:45～11:35】

- ・東京学芸大学 障がい学生支援室
- ・千葉大学 ノートテイク会
- ・九州ルーテル学院大学 障がい学生サポートルーム
- ・松山大学 学生支援室 障害学生支援団体POP
- ・愛媛大学 障がい学生支援ボランティア
- ・東北福祉大学 障がい学生サポートチーム
- ・札幌学院大学 アクセシビリティ推進委員会
- ・関西大学 学生相談・支援センター

【後半 11:40～12:30】

- ・首都大学東京 ダイバーシティ推進室
- ・九州大学 障害者支援ピア・サポーター
- ・北星学園大学 アクセシビリティ支援室 Note Takers
- ・日本福祉大学 学生支援センター 学生スタッフ
- ・宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会
- ・東北大学 特別支援室 利用学生・学生サポーター
- ・愛知教育大学 情報保障支援学生団体てくてく
- ・大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム

【ポスターのみ閲覧可能 12:30～13:15】





# 東京学芸大学

# 障がい学生支援室

## 充実した情報保障を提供するためには？

やってみたいけど、  
私にも支援できるかな...



- 手話練習会**・・・毎週火曜日2限に聴覚障害のある方と交流し、テイクに直接使える手話を学ぶ。
- テイク練習会**・・・毎日昼休みに模擬授業を行い、ベテランテイカーさんにテイクのコツを教えてもらう。



手話も覚えて、テイクの技術も  
向上して、自信がついた！

聴覚障害のある方に対する情報保障

- ・パソコンテイク
- ・文字起こし
- ・手話通訳 など



充実した情報保障を提供するために  
充実した事前準備が必要です。

おかげさまで  
登録者125名

## 手話通訳の情報保障

方針・・・派遣ではなく、学生に依頼する。

### メリット

- ・授業の一週間前から打ち合わせが行える。
- ・毎回同一人物の通訳者なので、前回の授業からの流れを容易に把握することができる。
- ・気楽に馴染むことができる。
- ・普段から話しているため、お互いの手話に慣れている。
- ・専門用語を事前確認し、通訳者と利用学生お互いが理解できるオリジナル手話を作ることができる。
- ・事前のみに限らず、授業後からも授業内容について確認ができる。
- ・オリジナル手話の辞典を作ること、今後の利用学生や通訳者に役立つ。 など

【お問い合わせ先】 東京学芸大学 障がい学生支援室

住所：〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 人文科学研究棟2号館1階

TEL/FAX：042-329-7905

Mail：[gsupport@u-gakugei.ac.jp](mailto:gsupport@u-gakugei.ac.jp)





# 首都大学東京 ダイバーシティ推進室

## ニーズの変化に対応した支援活動の展開

### ● ニーズに対応した支援が可能となる背景 ●

#### ● 談話スペースの充実

ダイバーシティ推進室には、教職員のデスクスペースや対面朗読室といった支援に関するスペース以外に談話スペースがあり、利用学生・支援学生が共に集う場となっている。普段の学生生活における雑談等から支援に関することまで、幅広い交流が行われている。

#### ● 頻繁な意見交換の場

支援において課題が見つかった際には、適宜意見交換の場が設けられる。そこでは、利用学生・支援学生、学生・教職員といった垣根無く話し合いがなされている。

#### ● 学生の主体性

学生はそれぞれ専攻やバックグラウンドが異なるため、自分の得意分野を活かして、講習会や勉強会、広報等の活動を行っている。

#### ● 組織

ダイバーシティ推進室を学長室下に位置付けることによって、全学的な情報共有が可能になっている。

### 前年度および今年度の支援状況

	2018 年度前期	2019 年度前期
利用学生	9 名	11 名
うち聴覚障害学生	3 名	4 名
支援学生	90 名	115 名
前期支援回数	208 回	166 回

## 事例

### 1. 遠隔支援

支援ニーズが他キャンパスで発生したものの、支援学生が足りない！！



他キャンパスから授業の映像を送り、支援学生のいるキャンパスからはテイク画面を送ることで、遠隔での支援が可能になった！！

### 2. 数式対応表

数学の授業の支援が始まったが、専門用語が出力できない！（＞＜）



数学科の大学院生の支援学生が、読み方と出力の対応表を作成したことで、どの学生も支援に入ることができるようになった！！

※一般の人（オープンユニバーシティ、科目履修生、学会、オープンキャンパス）にも対応可

## 課題と展望

### 使用する機器の多様化

用いる支援ソフトが増えたためにソフトを設定できる学生が限られ、負担が偏っている。

### 専門科目の増加

同じ専攻の上級生か、授業を受けたことがある学生だと内容が分かるので支援がスムーズに行える。

## お問い合わせ

首都大学東京ダイバーシティ推進室  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1  
TEL : 042-677-1337(直通)  
FAX : 042-677-1355  
E-mail : [diverwww@tmu.ac.jp](mailto:diverwww@tmu.ac.jp)



# 千葉大学ノートテイク会



## 情報保障の質を維持 するための取り組み

	2019年度前期
利用学生	3年生1名
派遣コマ数/週	9コマ
テイカー学生	31人
充足率	100% (全て3人派遣)

### 練習会

- ・実践形式
- ・週1回程度実施
- ・文理を問わない実践的な題材

連携入力の技術が向上した



### 研修会

#### ノートテイク研修会

- ・テイクに入るにあたってのテイカーとしての心構え
- ・聴覚障害に関する知識

聴覚障害について具体的に学ぶことができた

#### 技術班研修会

- ・実際のテイクで必須になる機材の使い方に関する技術  
(例)支援ソフトの使用法など

テイクに必要な様々な技術を身につけることができた

### 総会

- ・テイクでのトラブルの共有
- ・練習会やテイクで気付いた改善点の共有
- ・業務に関する議案の検討



#### 問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会

会長：丹羽彫佳

副会長：関谷悠冬, 若杉飛鳥, 中村晋, 部屋本朝香

✉ info@ntkai.skr.jp

🌐 http://ntkai.skr.jp

🐦 @chiba\_ntkai





# 九州大学障害者支援ピア・サポーター

ピア・サポーター（PS）とは、九州大学でアクセシビリティを実践し、高めていく人材のこと。  
インクルージョン支援推進室の指導の下、情報保障や学習サポート等の活動を行っている。

## 活動

### 支援活動

- ・PCノートテイク
- ・移動支援
- ・バリアフリーマップ
- ・大学たんけん
- ・カラーバリアフリー
- ・IQ ネット
- ・キャンパススイッチ
- ・パス時刻表

### 啓発活動

- ・Facebook/Twitter
- ・ポスター
- ・啓発ハンドブック
- ・啓発ビデオ
- ・ヘルプマーク
- ・活動報告書
- ・パンフレット英訳
- ・新歓企画

### 研修活動

- ・手話
- ・勉強会
- ・ガイドヘルプ研修会  
(視覚障害、車椅子)
- ・ALキャンプ

### 運営活動

- ・定例会
- ・シニア会議
- ・総会
- ・活動成果報告会

## 活動

## 支援実践

### PCノートテイク

#### 毎週の定期的活動

- ・入力練習以外にも、定例会の時間を使い、他のPS学生への啓発も行っている。



#### 入学式での情報保障

- ・原稿を元にした前ロール作成による対応やリアルタイムでの入力も行った。



#### 学内シンポジウムで支援

- ・全6回のシンポジウムで情報保障を担当する予定である。



### 手話

#### 毎週の定期的活動

- ・単語や文法を学生同士で学び合い、会話練習も行い、手話学習を進めている。



#### 聴覚支援学校生徒と交流

- ・大学散策や交流の中で、日頃の手話学習の成果を出す機会となった。



#### 社会人ろう者との座談会

- ・ろう者との交流により、手話学習をさらに深める機会となった。



### 課題と解決策

#### 課題

- ・活動メンバーの不足  
→ 聴覚障害学生の修学機会が保障されない
- ・専門的技術の習得不足  
→ 聴覚障害学生への支援の質が保障されない

#### 解決策

- ・授業内でデモを実施し広報活動を充実する
- ・外部講師による手話講座等で学び、定期的活動で理解を深める

#### PS 全体人数：27 名

- ・PC ノートテイク：9 名
- ・手話：2 名 + α

気づき  
スイッチ



#### 【問い合わせ先】

九州大学インクルージョン支援推進室

TEL: 092-802-5859

E-mail: inclusion@chc.kyushu-u.ac.jp (インクルージョン支援推進室)

qu.mnc.al@gmail.com (ピア・サポーター学生)

九州大学障害者支援ピア・サポーター 九州大学インクルージョン支援推進室





# 九州ルーテル学院大学 障がい学生サポートルーム



## 支援機器の効果的な使用方法 ー利用学生から見た現状と課題よりー

TEL:096-341-1168

FAX:096-273-7166

Email:support@klc.ac.jp



コミュニケーション  
(マイクと送信機)  
PC テイクの様子



コミュニケーション  
(スピーカー)

### 支援機器の効果的な使用方法とは・・・

#### PC テイク

- 利用学生、支援学生の全員で機器の使用について理解する(相互理解の深める)
- 話の内容を正確に理解し要約し伝える
- 状況等もそのまま伝える

#### コミュニケーション

- 事前にマイクとスピーカーの適切な距離を教員、利用学生、支援学生で把握する
- 実際に利用した学生が、不具合の対処方法をまとめ、全体共有する

#### UDトーク

- 事前に利用学生、支援学生が専門用語等を登録しておく
- 支援学生が、誤変換等の修正ができるようにする(技術の向上)

#### 映像文字起こし

- 支援学生が文字起こしをする際に、場面の切り替わりをはっきりさせる
- データ作成とデータの送信方法についてのマニュアルを作成し、周知をする(実践中!!)



コミュニケーション  
(受信機と送信機)



PC テイクとUD トーク  
(タブレット表示)

あ！



#### 映像文字起こし

(サポートルームにて)



### 利用学生から見た課題は・・・

#### 映像文字

- 映像と文字起こしの両方を見ながら内容を理解する大変である
- 文字起こしの送信方法を全員が理解していない

#### 起こし

- 文字起こし

#### PC テイク

- PCの不具合が多い
- 話者の話すスピードによる文字情報の読み取りづらさ
- 健聴学生とのタイムラグ(笑うタイミングのズレなど)

#### UDトーク

- 誤変換が多い
- 誤認識が多い
- 修正がうまくできない

#### コミュニケーション

- 電波や話者との距離による不具合
- 機器の不具合時の対応を把握できていない

ん～。



聴覚障がい学生の5人に4つの支援方法のよさと課題を聞きました！



# 北星学園大学 Note Takers

テイカーは有償ボランティアという位置付けで活動しています。誰でもテイカーになれるわけではなく、講習会や自主練を通して鍛えられたテイカーが揃っています。

利用学生が映像教材を視聴する際により理解が深まるよう、支援を行なっているものです。

スタッフの常駐、テイカー・利用学生のコミュニケーション  
支援機材の充実などからより手厚いサポートを行える環境となっています。  
ノートテイカーによる支援は毎日ここから始まります。

英語、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語に対応しています。利用学生に応じてそれぞれの分野に精通したテイカーが支援を行なっています。

多言語

字幕作成

テイカーの質

アクセシビリティ  
支援室

北星学園大学アクセシビリティ支援室

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

電話：011-891-2731（代表）

E-mail：acc-support@hokusei.ac.jp





# 松山大学 障がい学生支援団体 POP



## ～主な活動と新たな取り組み～

### 1. 新歓期 \NEW!／

ピラ配り・お花見などの粘り強い勧誘活動により、11名の新入部員を獲得。「1年生10人ゲット」を目標としていたので嬉しい！(3年 W・Aさん)



### 2. テイク体験会 \NEW!／

PC テイクとノートテイクに分かれ、自分の得意分野で伸ばすこともできる。自分は PC が得意なので、PC テイクのスキルを伸ばした！(1年 O・Rさん)



### 3. 活動紹介 PV 作成 \NEW!／

POP の活動やテイクの様子を紹介する動画を作り、新入生向けのガイダンスの場で映した。



5つの部署があります

### 4. テイク見学会 \NEW!／

初めて実際のテイクを見て圧倒された。これから始まるテイクへの不安が和らいだ！(1年 O・Hさん)



### 5. 手話会 \NEW!／

手話という堅いイメージがあったが、簡単なゲームを通して、楽しみながら学ぶことができた！！(1年 M・Yさん)



### 6. 外部テイカー

今年度も、学外のテイカーの方々のご協力をいただいた。今後もこの繋がりを大切にしていきたい。



お問い合わせ 松山大学学生支援室 藤岡・目見田・高須賀 連絡先 089-926-8212

E-mail mu-gaksup@matsuyama-u.jp / matsuyama.u.pop@gmail.com





ともに学び、ともに育つ



～つながりの海～

すべてがつながり  
日福の輪

日福学生

FD (教員研修)

教員に情報保障の  
現状を知ってもらう

教員

マッチング会

ちし生と講義に  
入るテイカーとの  
顔合わせ

ノートテイク  
PC テイク

友人  
関係

講義での  
配慮

ちし団体

ちし生同士が  
手話で  
交流できる場

交流会

キャンパスや  
障がいの有無を  
超えた交流会

学長との懇談会

3キャンパス合同で  
学長に支援の実態を  
伝える

聴覚障害学生

学生スタッフ

支援センター

オーダーメイドの  
情報保障

学内  
テイク  
練習会

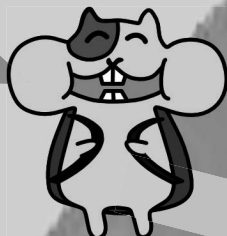
障がいの有無に  
関係ない関わり

他大学



# 愛媛大学障がい学生支援ボランティア (CBP)

意見交換会に行きづらいなあ…



意見交換会以外でも情報交換できる場がほしい

## ③意見交換会

- ・Twitterの質問箱で気軽に聞ける環境を作る
- ・意見交換会の名称を変える
- ・意見交換会後に参加者へのインタビューを行う

## ②手話

- ・CBPのミーティングで最初の15分間を手話の勉強に充てる
- ・バリアフリー推進室と連携して講座を開く
- ・利用者が支援の打ち合わせで積極的に手話を使う



手話を覚えたいけど難しそう…

手話を学ぶ機会が少ない

打ち合わせで利用者から何も言ってもらえない…

手話を使える支援者が少ない

支援ルールを支援者全員理解しているのか？

相互理解を進めたいな。。

## ①支援

- ・利用者から授業前の打ち合わせの時に支援のルール変更について支援者に説明する
- ・利用者とCBPで打ち合わせのロールプレイを行う
- ・支援者が打ち合わせで確認することをまとめる
- ・外国語の支援での注意点やポイントをまとめる

外国語の支援での情報量が足りない

支援者へ聴覚障害学生の気持ちをもっと知ってほしい



聴覚障害学生へどんな支援が必要なのかもっと教えて！！！！

CBPのミッション:障がいのあるなしに関わらず学生がよりよい大学生活を送るための活動をする

問い合わせ先

【愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)】

E-mail: [cbp.scv@gmail.com](mailto:cbp.scv@gmail.com) Facebook: <https://goo.gl/jAx8Hq>



# 前進

## ～共に歩むために～

これまでは、利用学生・支援学生・運営スタッフ間で互いに言いたいことを言い合える環境ではなかった。そこで今年は互いの距離を縮め、悩みや不安、考えを共有する場を設けて活動をしてきた。今後も共に足並みをそろえ、支援の発展につなげていきたい。

### 令和版DVD作成

新たに活動を始める学生に対し、より分かりやすく親しみを持ってもらえるよう、テイク活動を紹介するDVDを作り直した。

### テイクPadの作成

テイクの活動をもっと知ってもらうため、新たに3部作成。今後も継続的な作成を予定している。

### クリスマス会

大学史上初となるクリスマス会を実施予定。和やかな場で交流を深める。

### 反省会

後期や来年の活動に向けて、運営スタッフ・支援学生・利用学生で反省点や改善策を話し合った。

### 練習会の実施

新人テイカーを含めた練習会(基礎的内容、実践的内容、模擬授業形式)を行い、レベルアップを図った。

### 顔合わせ会

支援学生・利用学生が30人ほど集まり、ゲームを行うことで交流し、親睦を深めた。

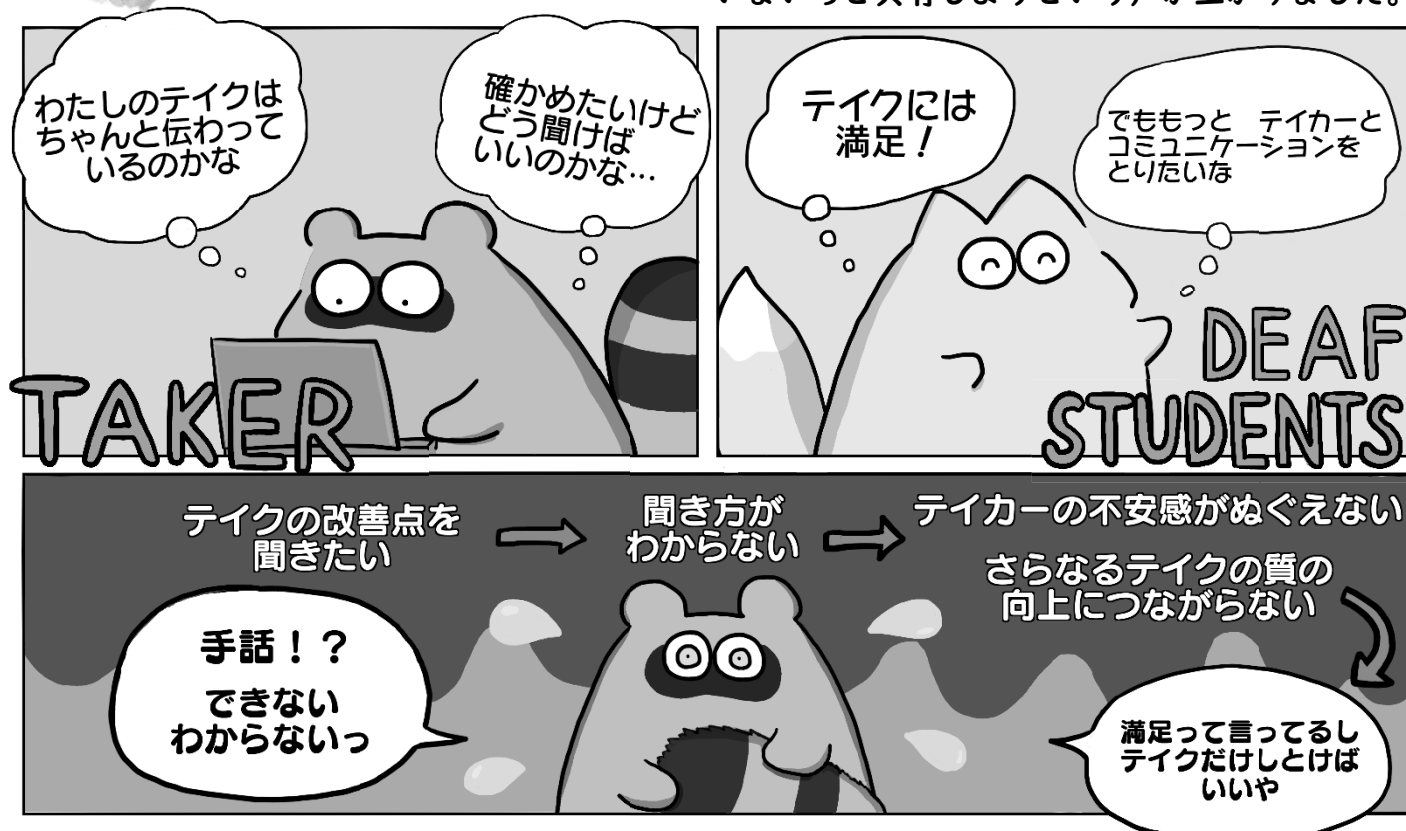




# 東北福祉大学 障がい学生サポートチーム

ちょこっと ひとこと  
伝え合おう！

本年度は新たな聴覚障がい学生が2名入学し、4名の利用学生となりました。  
前期では、のべ63コマの派遣。  
これまで以上の活発な活動が求められる中、テイカーの気持ち、利用学生の気持ちをいまいちど共有しようという声が上がりました。



## 課題

利用学生とテイカーが  
気軽に声をかけあえるようになろう！

### コミュニケーション方法を学ぶ取り組み

#### 「フリートーク」の開催

筆談やジェスチャーを使い、みんなで雑談をする時間を設けます。

- ・手話ができなくても話せる方法を知ろう
- ・テイカーと利用学生お互いを知ろう
- ・気軽に声をかけあえる土台をつくろう

「今日のテイク  
どうだった？」

「よかったよ！  
ありがとう」

「もっと改行あると  
読みやすく  
なるかも！」

### 自信をもてる質の高い テイクを目指す

#### 先輩テイカーによる 講習会

テイカーの不安軽減を目指し、経験者によるていねいな講習を行います。

ときどき、利用学生も参加。  
読みやすいテイクについて、  
アドバイスをもらえます。

#### アンケートの実施

利用学生、テイカー双方の  
想いを共有。  
「フリートーク」も  
ここから生まれました。

【お問い合わせ】東北福祉大学 障がい学生支援室

住所： 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

Email: support@tfu-mail.tfu.ac.jp TEL:022-301-1291

Twitter

shosapo\_tfu

Instagram



# 利用学生と学生サポーターの『連携』

利用学生・熟練学生サポーター・新人学生サポーターへのインタビューを通して、利用学生と学生サポーターの連携強化のために実施したこと・その結果・今後の課題をまとめました。

## 支援の質の向上を目指した連携強化

### Before

- ・ 特別支援室とサポーター個人の間でのみ連絡が行われるため、利用学生と学生サポーターの間や、サポーター同士の間のコミュニケーションが不足する
- ・ 業務の指示がトップダウンのため、学生サポーターからの意見や提案がしづらい
- ・ 他のサポーターがどんな業務をしているのかわからない
- ・ 熟練サポーターに業務が集中し、新人サポーターが支援に入りづらい状況



連絡手段として  
Slackを導入

ミーティングの  
回数を増やす

新人への  
業務割り振り



### After

- ✓ 直接やり取りする時間が取れないときも、支援の振り返りや、利用学生からの要望をサポーター全体で共有できるようになった
- ✓ 学生サポーターが主体となって活動を提案できるようになった
- ✓ 支援の実態を把握しやすくなり、支援に入る機会をサポーター自身が見つけられるようになった
- ✓ サポーター間の情報共有が可能となり、新人でも業務の引継ぎが容易になった

## インタビュー:それぞれの立場からみる今後の課題



### 利用学生

イベント等でサポーターと直接顔を合わせる機会を増やし、さらなる連携強化を図る

利用学生もサポーターの募集・勧誘にかかわる

### 熟練サポーター

利用学生との支援外の交流を深め、支援の質の向上を図る

「一緒に並走」の感覚で支援できるようにしたい

### 新人サポーター

情報の見える化を行い、全員が共有・閲覧できる環境整備を行う

最初は誰でも不安であることを前提に、熟練サポーターから失敗例・トラブル例を多く学ぶ



## 音声認識を利用した支援体制の構築 PEPNetシンポジウム参加のあゆみ

2014年

### ○認識精度向上に向けた取り組み

- ・話者の特性評価
- ・教室環境の評価
- ・機材(PC・マイク)の評価

2016年

### ○情報保障プロジェクト

- ・異なる機器・ソフトウェアの組み合わせによる実験
- ・異なる講義形態・教室環境における実験
- ・教員・学生向けマニュアル作成

認識精度の向上

実験の積み重ね

2019年

### ○学生主体の支援体制構築中

- ・パソコン/ノートテイクに加え「選べる支援」体制構築の一環として音声認識ソフトUDトークの導入。  
⇒ 多様な環境での支援がもてられている。
- ・実際の講義環境において利用するため、機器操作・修正作業の習熟、トラブル対応に向けた訓練。  
⇒ 講習会の実施による支援の質の維持  
⇒ トラブル対応事例の蓄積と活用

テキスト作成

機器取扱習熟

応援団長

講習

模擬講義

修正作業練習

連絡先 札幌学院大学サポートセンター(e-mail:shien@ims.sgu.ac.jp)



# 愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」

【問い合わせ先】 E-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp

## 授業のシフト作り

### (通常講義のコーディネート)

- ・ライカー不足
  - ・ 講義情報の公開が遅いため
- 調整する側の負担が大きい

## ガイダンス・集中講義の

### コーディネート

- ・募集依頼が遅い
- ・ライカーが偏る

## 練習会の開催

- ・運営人員の不足
- ・参加者の減少
- ・運営スタッフの負担大

## 運営スタッフ(学生) の 活動内容

## 映像教材の字幕付けの手配

- ・学内で映像教材の字幕付け
- 手続きの仕方が不透明
- ・映像教材を使用する際に
- 字幕がないことがある

## 交流会・イベントの開催

- ・参加者不足
- ・実施目的が不明瞭
- ・大学側から理解がない

運営の負担が大きい。今後、  
学生だけで運営していくのは  
難しい状況…

運営だけで精一杯。  
質の高い情報保障を行うための  
努力をする余裕がない・・・

## 改善方法

- ・大学との連携
- 話し合いの機会を設け現状を知ってもらう
- ・運営スタッフの募集
- ・一般学生への周知





### 利用学生とスタッフどうやる支援

～4年間の歩み～

モチベーション↑

利用学生の状況を把握。  
支援スタッフの悩みを聞く  
→ 支援方法の提案  
研修話し合いの場  
設定



- ・「、」「。」「」を打つ。
- ・不明な所は「\*」を打つ。
- ・改行をあまりしない。

入学前

高校までは支援なし  
不便だったなあ...

1年

支援受けられる！  
嬉しいなあ

気分UP↑

2年

あ、授業  
むずかしいぞと  
ついていけない...

3年

4年

共通ルール  
作成

PCノートテイク

落単

スタッフ  
専門的すぎ  
上手伝えられ  
ている不安...

ディスカッション

補助者の追加  
PCノートテイク

新には  
言試み!!

普段、スタッフが抱えている  
テイクの不安や悩みを解決  
するために実施。

これからの  
課題

利用学生とティーカーの「ガンバリ」や工夫だけでは限界がある!

教員への働きかけ・理解促進

※テイクだけで完全に情報保障できるわけ  
ではない!

「どう働きかけるか」←利用学生にとっても課題!





# 共に描こう！支援の花

## 「伝える」手段

- ・ルールを決める
- ・講習会動画をMoodleにあげる
- ・検討したことを在学生ガイダンスで伝える
- ・日々の共有



教員や普段支援に関わっていない学生に向けて、支援やテイカーのことを伝える

## 支援ルーム外

文化祭での活動を見直し、もっとたくさんの方により興味を持ってもらう

## 勉強会の開催

情報共有手段のさらなる活用

活動の改善と拡大

## 協力学生

- ・参加者、講師を増やす
- ・練習できる機会の提供
- ・普段のテイクで広める

学びを伝え  
学び始める

学びを  
広める

輪を  
広げる

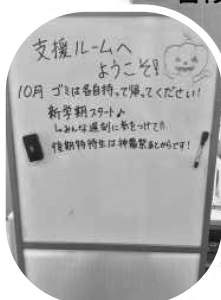
- ・活動／企画を引き継ぐ
- ・参加者を増やす

## 利用学生



・支援の現状や事柄を伝える  
・より良い支援を目指して、必要なら支援の在り方を変えていく

## 全体の「伝え合い」



メール、LINE、  
在学生ガイダンス、  
Moodle

「伝える」手段、  
「伝え合う」場が  
欲しい！

テイカーお仕事紹介

授業の困りごとを  
一緒に解決したい！

- ・文化祭（年2回）
- ・ルーム紹介動画
- ・Moodle

支援やルームの事  
を知って欲しい！

- ・新入生ガイダンス
- ・支援機器体験紹介

支援方法の共有  
がしたい！

- ・PCテイク特待生
- ・集中講座

スキルや意識を  
伝えたい！

- ・テイカー勉強会
- ・手話勉強企画
- ・表現方法の検討

ニーズからより良い  
支援を考え続け、全  
体で共有したい！







# MEMO

[illegible]



# 教職員による聴覚障害学生支援

## 実践発表 2019

### 発表内容紹介



SYMPOSIUM 2019



#### 【スケジュール】

10:45～12:30 教職員のみ閲覧可能

※11:15～12:05 発表者在席

12:30～13:30 教職員以外も閲覧可能

#### 【発表者一覧】

- ・宮城教育大学 しょうがい学生支援室 前原明日香 及川麻衣子 佐藤晴菜
- ・群馬大学
  - 教育学部 能美由希子 金澤貴之
  - 学生支援センター・手話サポーター養成プロジェクト室 下島恭子 川端伸哉
- ・群馬医療福祉大学 社会福祉学部 益子徹
- ・東京女子体育大学 体育学部 体育学科
  - 池和田克彦（教務部教務課） 小野田桂子(体操研究室)
  - 小林福太郎(教務部長・道徳研究室)
- ・東京農業大学 応用生物科学部 谷本佳子
- ・目白大学・目白大学短期大学部 学生課 障がい等学生支援室 荒木朋依
- ・小田原短期大学 杉中拓央
- ・大阪府立大学 高等教育推進機構 清原文代
- ・九州ルーテル学院大学 障がい学生サポート委員会 佐々木順二



# 体験を通して考える授業者としてできること

～FD 研修会での取り組み～

宮城教育大学 しょうがい学生支援室  
前原明日香 及川麻衣子 佐藤晴菜

本学では平成 25 年度から、学内の FD 研修会を企画・運営している目標・評価室という部署と共催で年に 1 回しょうがい学生支援をテーマとした FD 研修会を開催している。ここ数年は発達しょうがいのある学生への支援をテーマとして取り上げることが多かったが、近年、在籍する聴覚しょうがいのある学生への支援も、学生が求める支援がノートテイクだけでなく、聴覚補償システムや音声認識アプリの活用など多様化してきていることから、今年度は聴覚しょうがいのある学生への支援をテーマに FD 研修会を実施することとした。

## 1. プログラムについて

企画した具体的なプログラムについては、以下の通りである。

ここ数年の FD 研修会では、教職員同士で検討を行うワークショップ形式のプログラムを毎年行ってきたが、この時間が教職員同士で、講義等においてしょうがいのある学生に配慮を行う際に苦慮していることや工夫していることなどを共有する良い機会となっていた様子もみられたため、今年度も教職員同士で検討を行う時間を取り入れたプログラムとした。

- ・現在本学で行われている聴覚しょうがい学生支援（ノートテイク、パソコンノートテイク、聴覚補聴機器の使用、音声認識通訳、遠隔通訳）についての説明
- ・パソコンノートテイク体験、聴覚しょうがい学生疑似体験
- ・授業者としてできること等について検討、意見交換
- ・聴覚しょうがい学生（2 名）より体験談
- ・聴覚しょうがい部会長（聴覚しょうがいのある教員）よりまとめ
- ・質疑応答（聴覚しょうがい学生支援について・しょうがい学生支援全般について）

上記プログラムには、手話通訳、パソコンノートテイクを準備する。パソコンノートテイクは、実際に講義で支援にあたっている学生が行う。

## 2. 期待される効果について

今回は講義時に聴覚しょうがい学生やノートテイクが困る状況（紙資料の配布がない、ノートテイクに教員が話しかける等）を取り入れた模擬授業を行い、その中で実際に聴覚しょうがい学生の疑似体験やパソコンノートテイクの体験を教職員にしてもらう。これにより、講義の中で聴覚しょうがい学生がどんなことに困っているのか、また逆にどんな配慮が役に立っているのかを理解してもらえればと考えている。加えて、情報保障だけでは補いきれない点に気付いてもらえればと考えている。そしてその上で、授業者として何ができるのか、何をしなければいけないのかをより実感を持って考えてもらう機会としたい。また、パソコンノートテイクの体験もしてもらうことで、ノートテイク側の大変さも理解していただき、ノートテイクが情報保障をしやすい環境を作る（つまりはより多くの情報を聴覚しょうがい学生が得られる環境を作る）ことについても気付きを持っていただければと考えている。そして、実際に聴覚しょうがい学生の話聞くことで、普段の授業時だけでは確認しきれない学生の心情等についても理解してもらえらる機会になるのではないかと考えている。

（実際の FD 研修会実施時の様子、参加者の反応等については、当日発表を行う。）

問い合わせ先 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

TEL : 022-214-3651 / e-mail : csd@adm.miyakyo-u.ac.jp



# 授業における手話通訳者養成の実践報告

手話通訳者養成講座実践レベル準拠「日本手話と日本語の違いを学ぶⅢ」について

群馬大学 <sup>1)</sup>教育学部 <sup>2)</sup>学生支援センター・手話サポーター養成プロジェクト室  
能美由希子 <sup>1)</sup> 下島恭子 <sup>2)</sup> 川端伸哉 <sup>2)</sup> 金澤貴之 <sup>1)</sup>

## 1、はじめに：科目開講の背景

本学では、2017 年度より日本財団助成による「学術手話通訳に対応した専門支援者養成事業」を行っている。従来、手話奉仕員養成講座から手話通訳者養成講座の受講修了まで 5 年以上必要だが、本事業におけるカリキュラムは、その期間を 2 年半に短縮することを試みている。当該授業は、昨年度 1 年間で手話通訳者養成講座基礎・実践相当レベルの手話を習得した学生が、今年度前期に受講した科目である。

## 2、「日本語と日本手話の違いを学ぶⅢ」概要

- 1) 到達目標：各都道府県必須事業の手話通訳者養成講座上級レベルの内容を習得する。
- 2) 形式：演習（手話表現・手話通訳実技を含む）
- 3) 履修登録者：16 名（全て教育学部在籍。うち 15 名は障害児教育専攻）
- 4) 提出課題：週 3 回（OJT14 回、OJT 報告書 14 回、OJT 文字興し 7 回、OJT 再収録 4 回、読み取り通訳 1 回、聞き取り通訳 4 回）

### 5) 授業および課題提出の工夫：

- ・ OJT の通訳動画および OJT 報告書を元に、既習事項の再確認および定着化
- ・ 授業内の全体フィードバックで、OJT を通じて得られた気づきを共有
- ・ 授業内で個別フィードバックの時間を設け、できている点や改善できた点を明示
- ・ 学生同士で事例検討の力を養うため、OJT 終了時に同行者同士での振り返りを促す

## 3、授業担当教員および複数の研究員（ろう・聴者）による課題フィードバック

学生から提出された課題は、授業担当教員だけではなく、プロジェクト室勤務のろう・聴研究員もチェックした。学生に対しては、適宜コメントとしてフィードバックすることで、手話通訳技術の改善を図った。

### 【学生へのコメント例】

- ・ 個別の癖：手話表出のフレームサイズ・傾きや顔の傾き・音韻と NMM の繋がり、等
- ・ 音韻エラー：間違いやすい音韻（手型・位置・動き・手のひらの向き）の指摘
- ・ 手話と日本語の翻訳（意味の等価）：否定表現の使い分け→/ナイ（存在の否定）// ナイ（意思の否定）//チガウ/等の使い分けの再確認
- ・ 通訳者としての立ち振る舞い：「目の前を横切られてしまった」→通訳環境の再整備・授業担当教員から受講学生への再度アナウンスによる理解促進

## 4、関連講座「手話通訳士試験対策講座」の開講

手話通訳士試験を受験する学生に対して、自学の促しのため手話通訳士検定試験対策試験対策講座（全 1 回）を開講した。その後、実技試験の対策として、個別課題の設定およびフィードバックを行った。

### 【概要】

- ・ 学科試験・実技試験の勉強方法
- ・ GoogleDrive を活用した課題提出および個別フィードバック



問い合わせ先 群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室  
e-mail : SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp



# ろう・難聴者の就労上感じる具体的困難と就労移行支援プログラムの検討

群馬医療福祉大学

益子 徹

## 1. はじめに

近年、ろう・難聴従業員の労働環境は従来の工場などでの勤務からより複雑な意思疎通が求められる事務職へと変わりつつある。ろう・難聴従業員の就労状況での困難要因については、聴者従業員とろう・難聴従業員のコミュニケーション困難は解決されている様子は見られない状況（水野 2014a, 水野 2014b）が報告されており、益子（2019）では、その困難が生じる状況ごとのろう・難聴者たちの発話を元に、就労移行期にて配慮の依頼方法や自身の障害特性に関する訓練の必要が示された。しかし、就労移行支援事業所における視覚・聴覚言語障害支援体制加算の取得率が 2013 年の段階で 0.7%（厚生労働省，2014）であることを鑑みても、彼らの支援ニーズに対応した訓練は提供されていないことが推察される。

従って、本研究では、就労移行支援を受けているろう・難聴者に対して、彼らが訓練を受ける上で望ましいと考えている訓練内容・環境について質的に検討することで、ろう・難聴者に対応した就労移行支援プログラムの開発に向けた示唆を得る。

## 2. 方法

- 1) 調査対象者：ろう・難聴者を対象とする就労移行支援事業所 A に在籍し、就労経験を有する利用者 7 名
- 2) 調査方法：半構造化面接法を用い、各調査対象者に 1 時間程度実施した。
- 3) 調査内容：益子（2019）を元に「配慮の依頼方法」「就労支援員に求める要件」など
- 4) 分析方法：佐藤（2008）の定性的コーディングの手法に準じて分析を実施した。
- 5) 倫理的配慮：本研究への協力は任意とし、得られたデータは本研究のみに使用し、個人が特定されないことを説明し、実施した。

## 3. 結果

- 1) 調査対象者の属性：良耳聴力の平均は D を除き、100dB 以上の重度難聴であった。コミュニケーション方法は、B 以外はトータル・コミュニケーションであった。
- 2) カテゴリの分類：本研究では、2 つのカテゴリと 8 つのラベルに分類された。

## 4. 考察

訓練内容については、＜日本語文章の学習＞や＜特例子会社と障害者枠での実習＞などの支援プログラムに関する発話を得られた。加えて、＜ディスカッション形式の訓練＞や＜障害開示の方法についての訓練＞では、ろう・難聴者のみで訓練を行うだけでなく、他の障害のある利用者の人と共に訓練を提供することの有用性についても示唆された。

訓練環境・体制については、＜手話を使える職員の配置＞や＜動画を用いた宣伝＞では、手話を用いた宣伝や相談対応などの配慮を行う必要が示唆された。その上で、訓練中の就労後の環境を意識した上で、訓練全体に対しては手話の活用を希望しないという発話も得られた。加えて、音の大きさの意識化では、騒音計などを壁に設置するなどの工夫をすることで、意識化につながるのではないかといた発話も示された。

今後はこれらを効果的援助要素として整理し、就労移行支援プログラムの開発を行うことで、就労移行支援事業所の関係者間における認識の共有を図っていきたい。

問い合わせ先：益子 徹    mashiko@shoken-gakuen.ac.jp



# 体育大学の実技科目における音声文字化アプリ・iPad の活用方法の検討

－聴覚障害学生を対象として－

東京女子体育大学 体育学部体育学科

池和田克彦(教務部教務課)、 小野田桂子(体操研究室)、 小林福太郎(教務部長・道徳研究室)

## 1. はじめに

本学には聴覚障害学生が在籍しているが、実技科目の授業ではノートテイク等の情報保障は行っていない。現状の実技授業は、教員や同じ授業を受講している学生の身振り等に頼っている。しかし、体育大学の実技科目は、学生自身の競技能力の向上と、指導者を育成するという指導能力向上を主な目的としている。このため、教員から授業内で伝えられる動作ポイントや指導ポイントの説明の重要性は高いものとなっており、聴覚障害学生に対してもこれらの情報をその場で伝えられることが望ましい。この理由としては、その場で動作の修正等ができる可能性が高まり、同時に指導するポイントの理解も高まる可能性があるからである。

近年、聴覚障害学生の講義系科目のサポートの一つとして音声認識アプリと iPad が活用されている。これらを体育大学の実技科目の授業で実際に用いて、聴覚障害学生に対してどのようにすれば情報が伝わりやすくなるのかを、聴覚障害学生および授業担当教員からメリット・デメリット・提案等を聞き、活用方法を検討していく。

## 2. 実施内容

1) 被験者および授業科目：本学聴覚障害学生 2 名 体づくり運動 (4 回の授業内で実施)

2) 方法：

実技担当教員は音声認識アプリ専用マイク(株式会社アドバンスト・メディア製 AmiVoice FrontWT01) を装着し、聴覚障害学生は音声認識アプリ(Shamrock Records 株式会社製 UD トーク)をインストールした iPad (Apple 社製)を持ち、教員の声が文字化された iPad を補助として見ながら授業を受ける。授業後、音声認識アプリと iPad を使用して感じたメリット・デメリット・提案を学生および実技担当教員より聞く。

## 3. 結果

1) 学生からの回答

①主なメリット

- ・教員の説明がある程度正確に文字化した場合は、教員との距離があっても理解することができた。

②主なデメリット

- ・誤変換が多く理解できないことが多かった。
- ・iPad の重量があり、持ち運びが大変だった。

2) 担当教員からの回答

①意識して行ったこと

- ・実技担当教員がその授業で重要な情報を、授業冒頭に文字変換を意識しながら説明し、その後、動作を含めた授業を行った。

②授業内の iPad の設置場所の提案

- ・コートのようにスペースを使用する場面では、学生が iPad の持ち運びができないため、iPad を三脚に装着し、コートの左右に置くと良いのではないかと。
- ・プロジェクターを使用し壁に大きく UD トークの画面を投影すると良いのではないかと。

## 4. まとめ

今回は、実技科目担当教員が文字変換を意識しながら説明することで、聴覚障害学生に情報が伝わる場面はあった。今後、音声文字化アプリの変換精度の向上を期待しながら、さらに多くの実技科目の授業でこれらを使用し、教員や学生より感想や提案を聞き改善していくことが、必要だと思われる。



問い合わせ先

東京女子体育大学 教務部教務課 TEL：042-572-4131 FAX：042-576-2397





# 大学の英語科目における 聴覚障害学生支援の実践報告

東京農業大学 応用生物科学部 外国語研究室（英語）助教  
谷本佳子

本学部では、英語を1・2年生の必修科目に設定しており、習熟度に応じたクラスにおいて、リーディングとリスニングを中心に授業を展開している。

聴覚障害学生が入学したことをきっかけとし、本学部では、2017年度より聴覚障害学生支援に取り組んでいるが、学生が満足できるレベルで支援を行うことは容易ではなく、特に英語などの語学科目においては、その特殊性ゆえ、他の科目よりも修学支援が難しいように思われる。しかしながら、英語科目においても、教員側の工夫によって、聴覚障害学生に対して、他の学生と同時に、ほぼ同量の情報を提供することが可能である。本発表では、2018年度に発表者が担当した本学部の必修英語科目の授業内で実践し、成功した方法を紹介する。

## <3つのポイント>

- ・同じクラスの学生の理解と協力  
一緒に授業を受けるにあたり、特別な支援が必要な学生がいることをクラス全員が理解し、学生が互いに協力し合える体制をつくる
- ・情報保障の徹底  
「後で」ではなく、授業中の「今」知りたい、理解したいという気持ちに応える
- ・OHC（書画カメラ）があれば、ノートテイクは不要  
耳から得られない情報は、目から得る  
重要な情報は必ず文字化し、確実に情報を提供するように徹底する

## <リーディングでの工夫>

- ・予習を前提に授業を進める
- ・OHCの活用  
必要な情報はすべてスクリーンに映し出す  
1文ずつ英文とその和訳をスクリーンに映し出し、文法事項などは、必要に応じて、その場で説明しながら赤ペン等で書き込む

## <リスニングでの工夫>

- ・スクリプトカードの活用  
TOEIC形式のリスニング教材を使用しているため、1問ずつのスクリプト（音声で聞こえる内容を文字におこしたもの）をカードに貼り付け、問題数分のスクリプトカードを事前に作成する  
問題ごとにスクリプトカードを聴覚障害学生に渡し、他の学生と同じタイミングで問題を解いてもらう
- ・リスニングは不要？リスニング問題に取り組む意義  
他の学生が聞くスピードでスクリプトを読む訓練を行うことにより、速読力を強化できる
- ・OHCの活用  
基本的な使い方はリーディングと同様

### 問い合わせ先

東京農業大学 応用生物科学部 外国語研究室（英語）助教  
谷本佳子 連絡先（e-mail: yt206472@nodai.ac.jp）



# 目白大学におけるビデオ教材字幕付支援に関する 実践報告

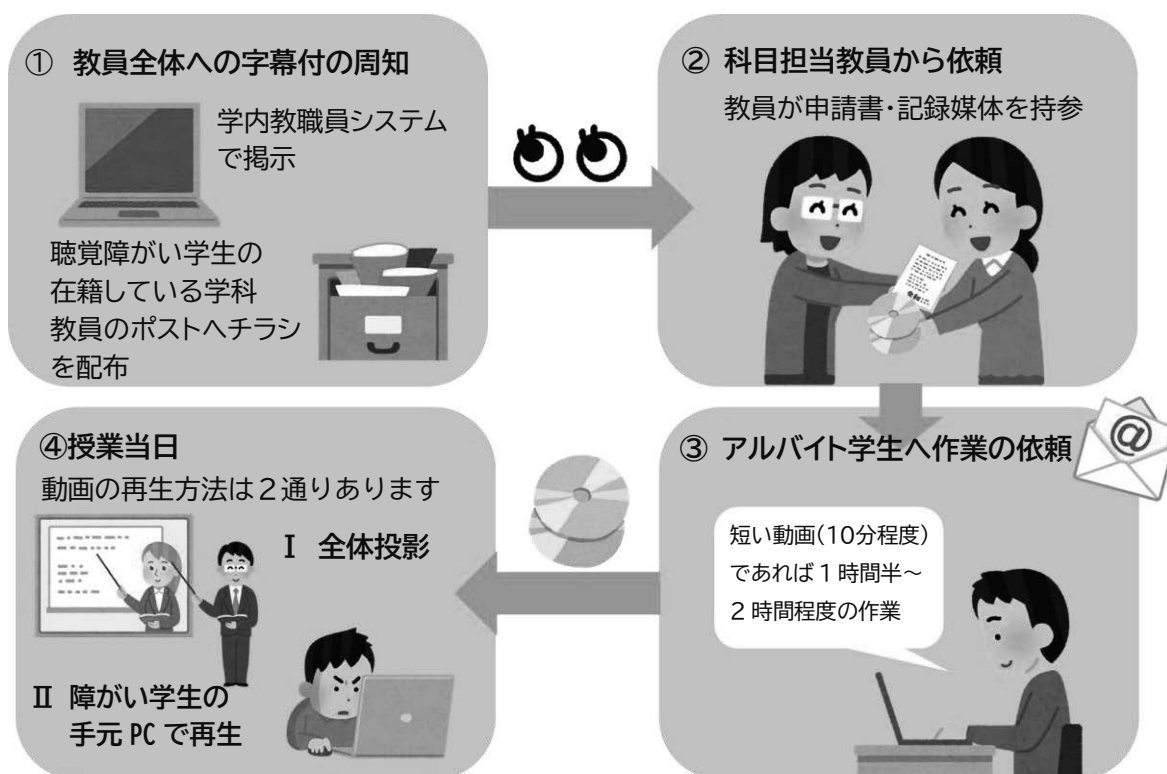
目白大学・目白大学短期大学部 学生課 障がい等学生支援室  
荒木 朋依

## 1、はじめに

現在目白大学では、7名の聴覚障がい学生（ノートテイクなどの支援希望者）が在籍しており、なかでも情報やメディア学を専攻する学生が多く、授業内で視聴覚教材を使用する頻度が高くなっている。本学では平成28年度より、ビデオ教材字幕付の支援を学生サポートスタッフの力を借りながら行っているが、日本学生支援機構の「大学、短期大学および高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果報告をみると、字幕付支援を提供している高等教育機関は非常に少ない。（平成30年度は障害学生在籍学校数941校のうち86校が実施）

そこで本発表では、目白大学での字幕付支援の取り組みや工夫点などを紹介し、聴覚障がい学生への情報保障が円滑に進んでいくための一助となれればと考える。

## 2、字幕付動画作成から使用当日までの流れ



## 3、現状

字幕付支援開始初年度は依頼数が伸びず、聴覚障がい学生やノートテイク者からも、ビデオ教材の字幕がなく授業中に苦労した旨を多々聞いていたが、教員向けに字幕付けに関する講習会を重ねて開催したり、聴覚障がい学生の入学が決まった学科には、入学前の冬、春休み期間から受注を受け付けることにより、近年は依頼数が格段に伸びてきている状況である。

### 【問い合わせ先】

目白大学学生課障がい等学生支援室 担当 荒木 朋依（TEL：03-5996-3123）



# 聴覚障害学生支援におけるキャリア発達支援

教職員のキャリア発達支援を含めて

小田原短期大学

杉中 拓央

## 1. キャリア発達の理解と誤解

近年、聴覚障害者の就労に関する統計が表出しつつあり、これまで識者の間で経験的に語られていた若年聴覚障害者の定着率の低さや、早期離職の現状が実証的に明らかにされている。高等教育機関を社会への出口と捉えるのであれば、上述した状況の解消は、広義の聴覚障害学生支援の範疇として取り組むべき喫緊の課題ともいえる。本稿においては、そうした取り組みをキャリア発達支援と総称する。

キャリア発達の概念は「人と環境との相互作用の結果」「時間の流れ」「空間的広がり」「個別性」という4点を内包しており、これらは独立せず相互に関連している。キャリア発達支援はわが国の聴覚障害児教育において、しばしば職業訓練や、就業時の配慮要請の方略の獲得と誤解されがちであり、本人が「どうありたいか」自己吟味の機会を持つことの必要性については、あまり触れられてこなかった。キャリアは職業(occupation)や職務(job)と同義ではなく、キャリア発達支援における Work とは、その時点の「課業」を意味しており、学生としての Work とは自身が将来なりたい姿を考え「学業」に努めることとも言える。

聴覚障害者は他の障害種に比して積極的に採用されてきた経緯があるが、その実は採用側の理解不足が大きく<sup>2)</sup>、採用後に問題が生じた際の落胆の幅もあるという。コミュニケーションの課題のほかに「やりがいがない・必要とされない」ことも離職の主因となっている<sup>3)</sup>ことを鑑みれば、就職活動のためのマナーや文章の作法は無論重要であるものの、学生の自己吟味の機会の創出についても目を向けるべきであると考えられる。

## 2. 教職員もキャリア発達する

キャリア発達は当事者のみに求められがちであるが、彼らに影響を与える教職員こそ培うべきとも言える。レイモンド・カーヴァーのエッセイに I didn't know anything but I knew I didn't know anything. (私は何も知らないが、そのことを私は知っている) という一節がある。たとえ教職員であっても、自身の来し方が偏りないと言える人は少ないであろう。指導的立場より一様に「そのやり方はだめ」と言うことは容易いが、聴覚障害学生を聴者社会に対する来訪者と捉えれば、彼らの個別性と、固有の背景に対する理解と共感を欠いた指摘は支援にあたらない。それは障害当事者の教職員においても同様であり、自分にできたことが学生にも可能なのか、思いを馳せることもひとつのキャリア発達である。

## 3. 転がる石に苔は生えない？失敗学的雑考

では結局、どうしたらいいのか(という声がきこえる)。そこで、今回は当事者でもある筆者による教育実践の紹介と、それに対する当事者研究的な考察をポスターに詳述させて頂くこととした。Role モデルならぬ Roll モデル(憧れも、追従したいという気持ちも喚起されないが、なんとなく心に留めておきたい事例)が社会を七度転がる経験の言語化こそ、個別性ゆたかな聴覚障害者の理解、周囲を含めたキャリア発達にとって参考資料とならないか...と考える。この頃「障害と関係ない所でよく教えられますね/働けますね」というような声を頂くが、実際はそのような環境において就労している聴覚障害者がほとんどである。むしろ、このような所感が出ることで自体が、聴覚障害教育のかいわいにある者が却って、充実した配慮を前提としたガラパゴスに籠もりつつあることの証かも知れない。あるいは、各自が「誰も知らないやりかた」を模索する努力も必要なのではないだろうか。

## 4. 文献

- 1) 渡辺三枝子(2007)新版キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ。ナカニシヤ出版。
- 2) 戸田重央(2019) Outreach33. jp 年次報告会—聴覚障害児者のキャリア発達支援。
- 3) 杉中拓央(2016)難聴者の社会生活における障害理解の促進に関する研究。2015年度笹川科学研究助成報告書。

問い合わせ先

杉中 拓央 t.suginaka.t@odawara.ac.jp



# 中国語の授業における人工内耳使用学生に対する 情報保障について

大阪府立大学 高等教育推進機構  
清原 文代

## 1. 当該学生の状況

人工内耳を使用し、第一言語は日本手話である。また、ディスレクシアの疑いもあり、文字を読むことに困難がある。日本手話以外の言語学習歴は日本語、英語、ドイツ語である。ドイツ語については大学 1 年次に合理的配慮を受けながら受講したもののついていけなくなり、途中で受講を放棄した。所属専攻は第二外国語が必修単位となっているため、2017 年度に上級生になってから中国語を週 1 回×1 年間受講し、優秀な成績で合格した。

## 2. 当該クラスの状況

2 年次以上の学生を対象とした少人数クラスで（例年 10 名程度）、1 年次に中国語を受講したものの不合格だったため再履修する学生と、1 年次は別の言語を受講していて 2 年次以上になって初めて中国語を学ぶ学生が混在しているクラスである。使用教室は Windows パソコンが配備された CALL 教室である。

## 3. 当該クラスで以前から行っている情報保障

合理的配慮が必要な学生がいるかどうかに関わらず、当該の授業では以前より下記の情報保障を行っている。

### 1) Learning Management System (Moodle) を使用した情報提供

毎回の授業進捗の記録・デジタル教材の提供・テスト範囲などの連絡事項の提示を行っている。教材は主に音声付き PDF と Quizlet による合成音声付きデジタル単語カードである。このうち、授業の記録、単語カードなど一部はインターネット上で公開している。

<https://qingyuan.sakura.ne.jp/wp/?cat=52>

<https://quizlet.com/kiyohara/folders/pinyin/sets>

[https://quizlet.com/kiyohara/folders/\\_/sets](https://quizlet.com/kiyohara/folders/_/sets)

### 2) iPad のノートアプリを用いた板書

GoodNotes という iPad 用ノートアプリを使用して 1 画面 3 行程度の板書を行ない、教室前面のスクリーンと学生 2 人に 1 台の割合で置かれているセンターモニタに提示している。

## 4. 当該学生に対して行った情報保障

3 の通常の情報保障に加え、授業の際に教員は FM マイクを着用し、更に大阪府立大学アクセスセンターの支援により、前期は UD トークによるリアルタイム字幕の表示及びノートテイカー 3 名、後期はノートテイカー 1 名を配置した。

その他、当該学生の質問に応じて適宜支援を追加した。例えば、中国語の発音の特徴である声調（声の高さや声の上がり下がりによって意味を区別する仕組み）が理解しづらいという訴えがあったので、NHK ゴガク「声調確認くん」（音声の再生に合わせて声調を図示するスマートフォン用のアプリ）を紹介した。

## 5. 当該学生に対して行った合理的配慮

成績評価に当たっては、筆記試験の聞き取り部分については、pinyin（中国語の発音を表すローマ字）を書いて渡し、簡体字（中国語の漢字）に直す形に変更した。試験用紙は A4 を B4 に拡大したものを使用した。暗誦テストや会話テストは、何も見ずに簡体字と pinyin で、制限時間内に書く形に変更した。

なお、本発表は JSPS 科研費 JP17K02933 の助成を受けたものである。

### 問い合わせ先

大阪府立大学 高等教育推進機構・清原文代 連絡先 (kiyohara@las.osakafu-u.ac.jp)



# 障がい学生支援に関する地域開放型講演会開催の意義

—九州ルーテル学院大学の7年間の取り組み—

九州ルーテル学院大学 障がい学生サポート委員会  
佐々木順二

## 1 目的と方法

本学は、2012年度以降、障がい学生支援に関する専門部署の設置、全国の動向に関する情報収集、支援体制の整備に取り組んできた。この取り組みの一環として、2013年度から、本学教職員と地域の関係者の障がい学生支援に関する理解啓発を目的とした「障がい学生の修学支援に関する講演会」(以下、講演会)を開催してきた。講演会は、熊本地震のあった2016年度を除き、計6回開催された。本発表は、これまで開催した講演会を振り返り、大学が地域に開放して開催する講演会にどのような意義があるのかを、各回のテーマ、参加者、実施方法(講演、パネルディスカッション、ワークショップ等)、情報保障、事後アンケートの結果の分析を通じて明らかにする。そして、今後の講演会開催や障がい学生支援に関する理解啓発の在り方について考察する。

## 2 各回の開催テーマ、実施方法、対象者、情報保障

講演会は、表1に整理したように、二部で構成され(午後1～4時半)、一部は基調となる講演、二部は講演、パネルディスカッション、シンポジウム、ワークショップにより実施してきた。2017年からは、全体テーマを設定し、一、二部の関連性をもたせるようにし、2019年は、参加者の日々の取り組みを振り返られるようグループワークを行った。回を重ねる毎に、より具体的で、日々の支援につながる内容になってきたと考えられる。

参加者を年次推移でみれば、293人(2013年)、228人(2014年)、173人(2015年)、103人(2017年)、75人(2018年)、91人(2019年)と減少傾向にある。開催当初は、特別支援学校教諭免許状の教職履修者に参加を義務づけていたこともあるが、初年度のインパクトは大きく、アンケート回答のあった地域からの参加者が101人であった(34.5%)。内訳は、学校関係者58人、福祉関係者9人、大学関係者18人、学生3人、一般13人(高校生、保護者等含む)であり、障がい学生支援に対する関心の高さを窺える。なお、2019年の地域からの参加者は47名(51.6%)で、都内の大学職員を含む県外からの参加者もあった。

地域の手話通訳者、要約筆記者派遣事業を利用して情報保障を準備し、毎回、聴覚障がい者を含む障がいのある当事者、高校生等の参加がある。

表1 講演会のテーマと実施方法の変遷

年月	第1部	第2部
2013/8	【講演】障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告(第一次まとめ)	【講演】「あ・か・さ・た・な」で大学院に行く
2014/8	【講演】「エンバールデザインをめざして」 ーわがままもおせっかいも役に立つ	【パネルディスカッション】 障がいのある学生の修学支援を考える
2015/8	【講演】障害者差別解消法と合理的配慮	【パネルディスカッション】本県及び九州の大学における障がいのある学生の修学支援の現状と課題
2017/12	障がい学生支援が創出する「価値」	
	【講演】障がい学生支援が高める大学の「価値」—文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する修学支援に関する検討会報告書(第二次まとめ)」を基に—	【学生企画シンポジウム】 私たちが生み出す「価値」—自立の姿と共生社会—
2018/8	障がい学生支援の地域ネットワークの可能性	
	【講演】障がい学生支援の地域ネットワークが生み出すもの ー関西障害学生支援担当者懇談会の取り組みー	【パネルディスカッション】 熊本の障がい学生支援の地域ネットワークの可能性
2019/8	合理的配慮について考える	
	【講演】合理的配慮について考える ーシラバス、授業設計、アクセシビリティー	【ワークショップ】合理的配慮について考えよう 【まとめ】話し合ったことの共有と講師からの助言、まとめ

## 3 事後アンケートにみる講演会の意義と課題

講演会の意義は、(1)障がい学生支援に関する情報提供、(2)日々の取り組みのリフレーミング、(3)地域ネットワークの形成の三点に集約できる。例えば(2)では、幼・小・中・高の教育関係者と支援や合理的配慮の考え方を共有できる機会となってきたと考えられる。(3)では、講演会は熊本県内の大学間の連携強化にも関係した。2018年の講演会後、熊本大学学生支援室との定期交流がスタートし、2019年8月から学生相互の交流も始まった。今後も、障がい学生支援に関する実践知を地域の関係機関と共有し、連携を深めていくことが期待される。テーマ別の研修等の開催も一つと考えられる。

問い合わせ先 障がい学生サポートルーム (TEL: 096-341-1168、e-mail: support@klc.ac.jp)



# 【参考】 前日特別企画 概要



.....  
SYMPOSIUM 2019







## 前日特別企画 概要



前日特別企画は、聴覚障害学生支援に関わるトピックスを取り上げ、ディスカッションやワークを通じて各テーマへの理解を深めるとともに、参加者同士の情報交換を行い、各大学等における支援の充実と発展に寄与することを目的とする。

日時：11月23日（土） 13:00～16:00

会場：大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター（大阪府吹田市山田丘1-1）

	対象	タイトル／概要／講師	定員
1	教職員	<p>ワークショップ 「アセスメントに基づいた合理的配慮と支援プランの作成」</p> <p>聴覚に限らず障害学生支援のアセスメント及び支援計画作成における基本的な考え方・方針を踏まえたうえで、聴覚障害学生へのアセスメント・支援計画作成におけるポイントについて、話題提供を行う。また、架空事例をもとにしたアセスメントや支援計画を検討するグループワークを行う。</p> <p>司会：中野聡子（大阪大学） 講師：諏訪絵里子（大阪大学） 池谷航介（岡山大学） 金澤貴之（群馬大学） グループファシリテーター： 望月直人（大阪大学） 藤原隆宏（関西大学） 生野 茜（関西学院大学） 脇坂紗帆（京都産業大学） 中津真美（東京大学） 前原明日香（宮城教育大学） 藤野友紀（札幌学院大学） 船越高樹（京都大学）</p>	45名



	対象	タイトル／概要／講師	定員
2	教職員 学生 その他	<p>「支援技術のさらに効果的な利用に向けて —活用事例紹介・利用体験を通して—」 遠隔情報保障技術や音声認識技術、映像教材への字幕挿入などの支援技術を円滑に活用するためのノウハウを共有することを目的として、成功事例や失敗事例、各大学で作成されているマニュアル等も参照しながら、運用時のポイントを確認していく。</p> <p>司会：楠 敬太（大阪大学） 仲兼久知枝（京都産業大学） 講師：三好茂樹（筑波技術大学） 太田琢磨（愛媛大学） 岡田孝和（明治学院大学）</p>	60名
3	教職員 学生 その他	<p>「先輩から学ぼう！ —大学での学びとキャリア形成—」 聴覚障害のある社会人の先輩や現役の聴覚障害学生から、経験や思い、生き方について話を聞く機会を設け、それをもとに自身のキャリアプランを具体的に描いていくワークショップを実施する。</p> <p>企画コーディネーター： 日下部隆則（同志社大学） 司会：阪田真己子（同志社大学） 講師：廣田喜春 （公益社団法人大阪聴力障害者協会） 志磨村早紀（元早稲田大学） 濱松晃大（関西学院大学 学生）</p>	60名



## 第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 実行委員

大会長	筑波技術大学	学長		石原 保志
実行委員長	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター	センター長	守山 敏樹
副実行委員長	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター	相談支援部門長	太刀掛 俊之
事務局長	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		白澤 麻弓
幹事	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		萩原 彩子
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		中島 亜紀子
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		磯田 恭子
実行委員	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター		望月 直人
	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター		中野 聡子
	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター		楠 敬太
	大阪大学	キャンパスライフ健康支援センター		藤本 富美枝
	大阪教育大学	教育学部		井坂 行男
	関西大学	学生相談・支援センター		藤原 隆宏
	関西学院大学	学生活動支援機構 総合支援センター		藤田 望
	関西学院大学	学生活動支援機構 総合支援センター		生野 茜
	京都大学	学生総合支援センター 障害学生支援ルーム		村田 淳
	京都大学	学生総合支援センター 障害学生支援ルーム		辻井 美帆
	京都産業大学	障害学生教育支援センター		脇坂 紗帆
	京都産業大学	障害学生教育支援センター		仲兼久 知枝
	同志社大学	学生支援センター 障がい学生支援室		土橋 恵美子
	同志社大学	学生支援センター 障がい学生支援室		日下部 隆則
	同志社大学	学生支援センター 障がい学生支援室		佐久川 陽介
	同志社大学	学生支援センター 障がい学生支援室		山本 理絵
	特定非営利活動法人ゆに			窪崎 泰紀
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		三好 茂樹
	筑波技術大学	産業技術学部		河野 純大
	筑波技術大学	聴覚障害系支援課		松久保 大作
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		石野 麻衣子
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		吉田 未来
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター		関戸 美音



## 第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2019 年 11 月 23 日

発 行：第 15 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

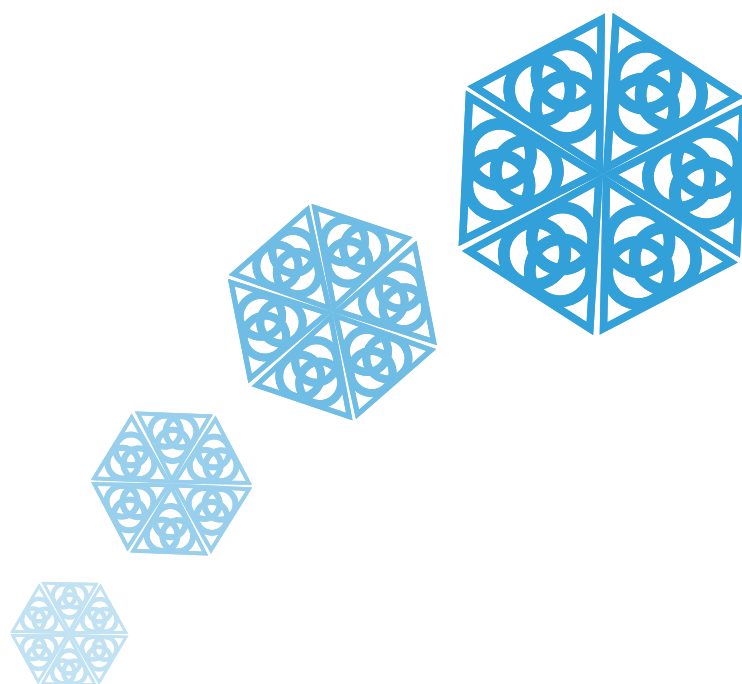
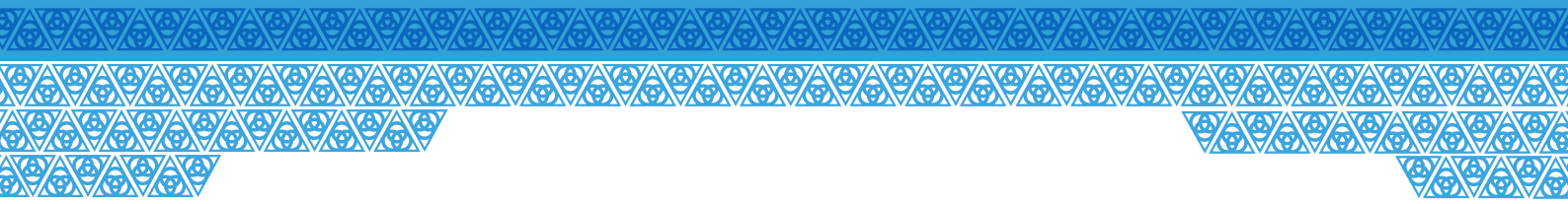
※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間  
コラボレーションスキーム事業」の活動の一部です。



デザイン：松本敬介（筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科 学生）

高橋彩加（筑波技術大学大学院 技術科学研究科 情報アクセシビリティ専攻 学生）





国立大学法人

筑波技術大学

**PEPNet-Japan**

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク

